

日本史学科専門科目（令和4年度入学生用）

	科目コード	授業コード	科目名	単位	時数	学年	開講	担当教員	教職必修	概要	開放		
基礎科目	30010		日本史概説1	②	30	1	前期	吉田 歆	○	[国]は専門単位 [英・社]は教養単位 [国]は専門単位 [英・社]は教養単位 東洋史 西洋史[英]は専門単位 [国・社]は教養単位 [国]「古文書学」で読替	教養 教養 教養 教養 教養 教養 教養 教養		
	30020		日本史概説2	②	30	1	前期	藪部 寿樹	○				
	30030		日本史概説3	②	30	1	前期	小林 文雄	○				
	30040		日本史概説4	②	30	1	後期	布施 賢治	○				
	30050		日本史概説5	②	30	1	後期	山田彩起子	○				
	30060		日本史概説6	②	30	1	後期	原 淳一郎	○				
	30070		外国史1	②	30	1・2	後期	鈴木 博之	○				
	30080		外国史2	②	30	1・2	前期	山崎 彰	○				
	30090		古文書学1	②	30	1	前期	布施 賢治					
	30100	30101	古文書学2	②	30	1	後期	原 淳一郎					
	30100	30102	〃	②	30	1	後期	山田彩起子					
		古文書学3	2	30	2	前期	小林 文雄						
		史学実習1	①	45	1	後期	日本史専任教員						
		史学実習2	①	45	2	前期	日本史専任教員						
基幹科目	30210		日本史講読1A	2	30	1・2	前期	吉田 歆		古代史 中世史 近世史 近現代史 女性史 文化史	1年次にA から履修		
	30220		日本史講読2A	2	30	1・2	前期	藪部 寿樹					
	30230		日本史講読3A	2	30	1・2	前期	小林 文雄					
	30240		日本史講読4A	2	30	1・2	前期	布施 賢治					
	30250		日本史講読5A	2	30	1・2	前期	山田彩起子					
	30260		日本史講読6A	2	30	1・2	前期	原 淳一郎					
	30310		日本史講読1B	2	30	1・2	後期	吉田 歆				古代史 中世史 近世史 近現代史 女性史 文化史	1年次にB から履修
	30320		日本史講読2B	2	30	1・2	後期	藪部 寿樹					
	30330		日本史講読3B	2	30	1・2	後期	小林 文雄					
	30340		日本史講読4B	2	30	1・2	後期	布施 賢治					
	30350		日本史講読5B	2	30	1・2	後期	山田彩起子					
	30360		日本史講読6B	2	30	1・2	後期	原 淳一郎					
			日本史特殊研究1A	2	30	2	前期	吉田 歆		古代史 中世史 近世史 近現代史 女性史 文化史	Aと同一 番号を履修		
			日本史特殊研究2A	2	30	2	前期	藪部 寿樹					
			日本史特殊研究3A	2	30	2	前期	小林 文雄					
			日本史特殊研究4A	2	30	2	前期	布施 賢治					
			日本史特殊研究5A	2	30	2	前期	山田彩起子					
			日本史特殊研究6A	2	30	2	前期	原 淳一郎					
			日本史特殊研究1B	2	30	2	後期	吉田 歆		古代史 中世史 近世史 近現代史 女性史 文化史	Aと同一 番号を履修		
			日本史特殊研究2B	2	30	2	後期	藪部 寿樹					
			日本史特殊研究3B	2	30	2	後期	小林 文雄					
			日本史特殊研究4B	2	30	2	後期	布施 賢治					
			日本史特殊研究5B	2	30	2	後期	山田彩起子					
			日本史特殊研究6B	2	30	2	後期	原 淳一郎					
		日本史演習1A	2	30	2	前期	吉田 歆	古代史 中世史 近世史 近現代史 女性史 文化史	Aと同一 番号を履修				
		日本史演習2A	2	30	2	前期	藪部 寿樹						
		日本史演習3A	2	30	2	前期	小林 文雄						
		日本史演習4A	2	30	2	前期	布施 賢治						
		日本史演習5A	2	30	2	前期	山田彩起子						
		日本史演習6A	2	30	2	前期	原 淳一郎						
		日本史演習1B	2	30	2	後期	吉田 歆	古代史 中世史 近世史 近現代史 女性史 文化史	Aと同一 番号を履修				
		日本史演習2B	2	30	2	後期	藪部 寿樹						
		日本史演習3B	2	30	2	後期	小林 文雄						
		日本史演習4B	2	30	2	後期	布施 賢治						
		日本史演習5B	2	30	2	後期	山田彩起子						
		日本史演習6B	2	30	2	後期	原 淳一郎						
展開科目			女性史1	2	30	1・2	前期	—	○ ○ ○ ② ② ②	本年度開講せず 本年度開講せず [国]と合同	教養 教養 教養 教養 教養 教養		
	30830		女性史2	2	30	1・2	前期	—					
	30840		考古学概説	2	30	1・2	前期	阿部 明彦					
	30850		民俗学概説	2	30	1・2	前期	岩鼻 通明					
	30871		歴史考古学	2	30	1・2	前期	吉田 歆					
	30880		生活文化史	2	30	1・2	後期	小林 文雄					
関連科目			国際交流史	2	30	1・2	後期	布施 賢治		人文地理学 自然地理学 前期開講（8～9月） [社]「政治心理学」で読替 [社]と合同 [社]「経済学入門」で読替 [国]「東洋思想」で読替	教養 教養 教養 教養 教養 教養 教養 教養 教養 教養		
	30910		地理学1	2	30	1・2	前期	岩鼻 通明					
	30920		地理学2	2	30	1・2	集中	佐野 嘉彦					
	30930		地誌学	2	30	1・2	後期	藪部 寿樹					
	30940		法律学	2	30	1・2	後期	高木 紘一					
	30950		政治学	2	30	1・2	後期	亀ヶ谷雅彦					
	30960		社会学	2	30	1・2	前期	中川 恵					
	30970		経済学	2	30	1・2	前期	鈴木 久美					
	30980		倫理学	2	30	1・2	後期	佐々木隼相					
	30990		哲学	2	30	1・2	前期	小熊 正久					
	31000		宗教学	2	30	1・2	前期	原 淳一郎					
31010		思想史	2	30	1・2	前期	小野 卓也						
		卒業研究	④		2								

(注)・「○数字」は必修単位、「」○数字」は選択必修単位
 ・「授業コード」がある場合、同じ科目名の授業の中から1つのみ選択できる
 ・教職科目については、教職必修欄の科目を履修することで条件を満たす

日本史学科専門科目（令和3年度入学生用）

	科目 コード	授業 コード	科目名	単位	時数	学年	開講	担当教員	教職 必修	概要	開放
基礎科目	30070		日本史概説 1	②	30	1	前期	吉田 歆	○	[国]は専門単位 [英・社]は教養単位	教養 教養 教養 教養 教養 教養
			日本史概説 2	②	30	1	前期	藪部 寿樹	○		
			日本史概説 3	②	30	1	前期	小林 文雄	○		
			日本史概説 4	②	30	1	後期	布施 賢治	○		
			日本史概説 5	②	30	1	後期	山田彩起子	○		
			日本史概説 6	②	30	1	後期	原 淳一郎	○		
	30080		外国史 1	②	30	1・2	後期	鈴木 博之	○	[国]は専門単位 [英・社]は教養単位 東洋史	教養 教養
			外国史 2	②	30	1・2	前期	山崎 彰	○		
	30103		古文書学 1	②	30	1	前期	布施 賢治	}	[国]「古文書学」で読替	
			古文書学 2	②	30	1	後期	原 淳一郎			
30120		古文書学 3	2	30	2	前期	山田彩起子				
		史学実習 1	①	45	1	後期	小林 文雄				
		史学実習 2	①	45	2	前期	日本史専任教員				
基幹科目	30210		日本史講読 1 A	2	30	1・2	前期	吉田 歆	}	古代史 中世史 近世史 近現代史 女性史 文化史	1年次にA から履修
			日本史講読 2 A	2	30	1・2	前期	藪部 寿樹			
			日本史講読 3 A	2	30	1・2	前期	小林 文雄			
			日本史講読 4 A	2	30	1・2	前期	布施 賢治			
			日本史講読 5 A	2	30	1・2	前期	山田彩起子			
			日本史講読 6 A	2	30	1・2	前期	原 淳一郎			
	30310		日本史講読 1 B	2	30	1・2	後期	吉田 歆	}	古代史 中世史 近世史 近現代史 女性史 文化史	1年次にB から履修
			日本史講読 2 B	2	30	1・2	後期	藪部 寿樹			
			日本史講読 3 B	2	30	1・2	後期	小林 文雄			
			日本史講読 4 B	2	30	1・2	後期	布施 賢治			
			日本史講読 5 B	2	30	1・2	後期	山田彩起子			
			日本史講読 6 B	2	30	1・2	後期	原 淳一郎			
	30410		日本史特殊研究 1 A	2	30	2	前期	吉田 歆	}	古代史 中世史 近世史 近現代史 女性史 文化史	Aと同一 番号を履修
			日本史特殊研究 2 A	2	30	2	前期	藪部 寿樹			
			日本史特殊研究 3 A	2	30	2	前期	小林 文雄			
			日本史特殊研究 4 A	2	30	2	前期	布施 賢治			
			日本史特殊研究 5 A	2	30	2	前期	山田彩起子			
			日本史特殊研究 6 A	2	30	2	前期	原 淳一郎			
	30510		日本史特殊研究 1 B	2	30	2	後期	吉田 歆	}	古代史 中世史 近世史 近現代史 女性史 文化史	Aと同一 番号を履修
			日本史特殊研究 2 B	2	30	2	後期	藪部 寿樹			
			日本史特殊研究 3 B	2	30	2	後期	小林 文雄			
			日本史特殊研究 4 B	2	30	2	後期	布施 賢治			
			日本史特殊研究 5 B	2	30	2	後期	山田彩起子			
			日本史特殊研究 6 B	2	30	2	後期	原 淳一郎			
	30610		日本史演習 1 A	2	30	2	前期	吉田 歆	}	古代史 中世史 近世史 近現代史 女性史 文化史	Aと同一 番号を履修
			日本史演習 2 A	2	30	2	前期	藪部 寿樹			
			日本史演習 3 A	2	30	2	前期	小林 文雄			
			日本史演習 4 A	2	30	2	前期	布施 賢治			
			日本史演習 5 A	2	30	2	前期	山田彩起子			
			日本史演習 6 A	2	30	2	前期	原 淳一郎			
		日本史演習 1 B	2	30	2	後期	吉田 歆				
		日本史演習 2 B	2	30	2	後期	藪部 寿樹				
		日本史演習 3 B	2	30	2	後期	小林 文雄				
		日本史演習 4 B	2	30	2	後期	布施 賢治				
		日本史演習 5 B	2	30	2	後期	山田彩起子				
		日本史演習 6 B	2	30	2	後期	原 淳一郎				
展開科目	30830		女性史 1	2	30	1・2	前期	—	○	本年度開講せず 本年度開講せず	教養 教養
			女性史 2	2	30	1・2	前期	—			
	30840		考古学概説	2	30	1・2	前期	阿部 明彦	○	[国]と合同	教養 教養
			民俗学概説	2	30	1・2	前期	岩鼻 通明			
	30850		歴史考古学	2	30	1・2	前期	吉田 歆	○		教養 教養
			生活文化史	2	30	1・2	後期	小林 文雄			
30880		国際交流史	2	30	1・2	後期	布施 賢治	○		教養 教養	
			2	30	1・2	後期	—				
関連科目	30910		地理学 1	2	30	1・2	前期	岩鼻 通明	○	人文地理学 自然地理学 前期開講（8～9月）	教養 教養
			地理学 2	2	30	1・2	集中	佐野 嘉彦			
	30930		地誌学	2	30	1・2	後期	藪部 寿樹	○		教養 教養
			法律学	2	30	1・2	後期	高木 紘一			
	30950		政治学	2	30	1・2	後期	亀ヶ谷雅彦	②	[社]「政治心理学」で読替	
			社会学	2	30	1・2	前期	中川 恵			
	30970		経済学	2	30	1・2	前期	鈴木 久美	②	[社]と合同 [社]「経済学入門」で読替	
			倫理学	2	30	1・2	後期	佐々木隼相			
	30990		哲学	2	30	1・2	前期	小熊 正久	②		教養 教養
			宗教学	2	30	1・2	前期	原 淳一郎			
	31010		思想史	2	30	1・2	前期	小野 卓也	②	[国]「東洋思想」で読替	教養 教養
			2	30	1・2	前期	—				
31110		卒業研究	④		2						

(注)・「○数字」は必修単位、「」○数字」は選択必修単位
 ・「授業コード」がある場合、同じ科目名の授業の中から1つのみ選択できる
 ・教職科目については、教職必修欄の科目を履修することで条件を満たす

講義科目名称：日本史概説1（30010）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	必修・教職必修
担当教員			
吉田 歆			
開放（教養）	高大連携開放科目※	※高校生男女が受講する場合有	授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	日本古代史における諸問題について講義を行う。基本的には通史的な解説を行いながら進めていくが、テーマ史的な視点から、現在の歴史研究の状況についても解説していく。それによってより深く古代史を理解することを目標とする。
授業計画	<p>第1回 インTRODクシヨN～日本列島のすがた～</p> <p>第2回 倭人の登場</p> <p>第3回 古代国家の形成</p> <p>第4回 東アジアの中の日本</p> <p>第5回 天皇号の成立</p> <p>第6回 倭国から日本へ</p> <p>第7回 律令国家支配の成立</p> <p>第8回 飛鳥の様子</p> <p>第9回 藤原京を探す</p> <p>第10回 藤原京の復元</p> <p>第11回 律令国家と地方</p> <p>第12回 律令国家と文化</p> <p>第13回 平安遷都</p> <p>第14回 古代の東北地方</p> <p>第15回 古代国家と中世社会</p>
授業概要	古代史に関係するテーマを詳しく解説する。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	授業中にわからなかった語句の意味を調べること。
テキスト	とくに使用しない。必要に応じてプリントを配布する。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	政治史だけにかたよらず、文化史など本当にいろいろな分野にも目を配りながら進めていくので、何か一つでも興味を持てるテーマを見つけてもらいたい。
評価方法	積極的な授業への参加度（50%）、レポート（50%）
参考文献	
備考	

講義科目名称：日本史概説2（30020）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	必修・教職必修
担当教員			
菌部 寿樹			
開放（教養）	高大連携開放科目※	※高校生男女が受講する場合有	授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	1. 日本中世史の基礎的な知識を得ること。 2. 現代に立脚して長いタイムスパンで歴史をとらえる眼を養い、歴史的な思考方法を会得すること。		
授業計画	第1回	中世とは何か	
	第2回	中世の権力者と天皇（上）	
	第3回	中世の権力者と天皇（下）	
	第4回	中世人の食生活（上）	
	第5回	中世人の食生活（下）	
	第6回	中世民衆の身分と名前（上）	
	第7回	中世民衆の身分と名前（下）	
	第8回	中世人の経済観念（上）	
	第9回	中世人の経済観念（下）	
	第10回	中世人の時間観念（上）	
	第11回	中世人の時間観念（下）	
	第12回	中世法の特質（上）	
	第13回	中世法の特質（下）	
	第14回	中世の刑罰と社会（上）	
	第15回	中世の刑罰と社会（下）	
授業概要	通常の概説のように時系列を重視するのではなく、研究上の問題点や興味深い話題を提供する形で講義をします。1～2回の講義で1つのテーマが完結する形で授業をすすめます。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	講義後、レジュメに示した参考文献を読んで、理解を深めて下さい。		
テキスト	必要に応じて、プリントや参考資料を配布します。		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	一方通行とならない講義を心がけますので、積極的に授業に参加してください。また毎テーマ終了後に小アンケートを実施します。		
評価方法	期末レポート（90%）、小アンケート[記名記載]による評価（10%）		
参考文献	毎回、講義内容に即した参考文献を示します。		
備考			

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	必修・教職必修
担当教員			
小林 文雄			
開放（教養）	高大連携開放科目※	※高校生男女が受講する場合有	授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	現代社会を理解する上で歴史的なものの見方が欠かせないことを理解できるようになる。		
授業計画	第1回	ガイダンス 日本近世史とは何か 歴史学上の地域区分や時代区分について説明し、日本や近世といった枠組みを問い直します。	
	第2回	国境をとりはずして考える日本史（1） 東アジアのなかの日本 日本列島の歴史を、東アジアの広がりの中で考えてみます。	
	第3回	国境をとりはずして考える日本史（2） 蝦夷地をとりまく北方の交易世界 蝦夷地を北東アジアや北太平洋地域のなかに位置づけ、日本列島の歴史を複線的にとらえ直します。	
	第4回	世界のなかの近世日本 江戸時代の対外関係 国境はどのようにつくられるのか 江戸時代の日本をとりまく国際的な環境について検討します。	
	第5回	近世の支配体制（1） 江戸時代の統治のしくみと社会制度 江戸時代の政治体制と、それを支えていた社会制度について説明します。	
	第6回	近世の支配体制（2） 江戸時代の支配の特質 中世の武家政権と近世の武家政権では、領主の支配のあり方にどのような違いがみられたのか、江戸時代の領主と百姓の関係はどのようなものだったのか、について考えます。	
	第7回	近世の支配体制（3） 近世の統治の理念 江戸幕府（徳川政権）は約260年もの長い期間にわたって支配を続けることができたのか、幕府の正当性・正統性はどこにあったのか、検討します。	
	第8回	近世の民衆運動（1） 百姓一揆の作法 江戸時代の人びとの結びつき方や行動様式の特徴を、百姓一揆をとおして考えます。	
	第9回	近世の民衆運動（2） 百姓一揆の思想（百姓一揆をささえる社会規範と集合心性） 江戸時代の百姓たちの法意識、社会規範について検討します。	
	第10回	近世の文化（1） 文字の普及と読み書き能力 江戸時代の社会の特質を、文字の普及や役割という観点から考えてみます。	
	第11回	近世の文化（2） 文字の習得と江戸時代の教育 江戸時代の庶民教育とその意義について考えてみます。	
	第12回	近世の村と地域（1） 村の安全保障 江戸時代の人びとは、自分たちの生活と生命をどのように守っていたのでしょうか。命を守る仕組みの発展という側面から、江戸時代の社会を見直します。	
	第13回	近世の村と地域（2） 村定の世界 江戸時代のさまざまな村定から、村の治安維持・秩序維持の特質について検討します。	
	第14回	近世の村と地域（3） 国訴と郡中議定－近世後期の地域社会 江戸時代の村の自治が、近代に向けてどのように展開していったか、考えます。	
	第15回	近世の特質 まとめ	
授業概要	日本近世史の諸問題について、講義します。通史的な概説や、政治史・経済史・文化史といった、分野ごとの解説は行わず、研究上の争点や近年注目されているトピックを取り上げて講義します。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	授業で取り上げた文献等を図書館で借りて読むようにこころがけてください。		
テキスト	必要に応じて資料を配布します。資料はTeamsのファイルに入れます。あらかじめダウンロードしてください。		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	授業の理解度をはかるために、コメントシートを毎回提出してもらいます。コメントシートに記載する内容の詳細は、授業内のほか、Teams内で指示することもあります。質問等は、LINEまたはメールでも受け付けます。積極的に質問してください。		
評価方法	期末レポート60%、コメントシートによる評価40%		
参考文献			
備考			

講義科目名称：日本史概説4（30040）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	必修・教職必修
担当教員			
布施 賢治			
開放（教養）	高大連携開放科目※	※高校生男女が受講する場合有	授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	自ら問題意識を持ち、日本近現代史の諸問題について考え、それを現代社会の諸問題と関連づけて検討できるようにすること。
授業計画	<p>第1回 明治維新の時代区分 ～明治維新はいつからいつまで？</p> <p>第2回 明治維新と国家形成 ～明治維新の結果どんな社会が形成されたのか？</p> <p>第3回 明治維新と主体勢力 ～明治維新は誰が達成したのか？</p> <p>第4回 米沢女子短期大学で学ぶ意味とは ～米短はどうして公立女子短期大学として戦後の米沢に誕生したのか？</p> <p>第5回 海防と武士・農民・国家 ～異国船に日本はどう対応したのか？</p> <p>第6回 明治維新と剣術 ～新撰組はなぜ活躍できたのか？維新後彼らはどうなったのか？</p> <p>第7回 武士から士族へ（廃藩置県） ～武士はどのようにリストラされたのか？</p> <p>第8回 大日本帝国憲法を読んでみる ～大日本帝国憲法の特徴と矛盾点について考える</p> <p>第9回 地方改良運動とは ～現在の地域社会の原型はいつ頃形成されたのか？</p> <p>第10回 立身出世主義 ～近代を動かした心のエンジンとは何だろうか？</p> <p>第11回 大正デモクラシー ～日本人はいつからアメリカを意識しだすのか？</p> <p>第12回 現代化の契機とメディア ～いつから現代は始まるのか</p> <p>第13回 総力戦と現代化―連続と断絶― ～戦後社会はすでに戦前社会に出来ていたのか？</p> <p>第14回 民衆と戦中・戦後 ～民衆は戦争・戦後とどのように向き合ったのか？</p> <p>第15回 戦前・戦後のニュース映画を見る ～映像史料から考える</p>
授業概要	日本近現代史の諸問題について概説的に講述する。講義形式。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	日頃より読書やほかの講義の受講を通じて、この授業のテーマについて主体的に考えること。
テキスト	特になし。必要に応じてプリントを配布します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	わかりやすい授業を心がけていきます。疑問点や質問は随時受け付けます。
評価方法	期末レポート
参考文献	
備考	

講義科目名称：日本史概説5（30050）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	必修・教職必修
担当教員			
山田 彩起子			
開放（教養）	高大連携開放科目※	※高校生男女が受講する場合有	授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	日本女性史の通史を理解することを目指します。		
授業計画	第1回	古代社会と女性	
	第2回	古代の女帝	
	第3回	女官から女房へ	
	第4回	摂関政治と国母	
	第5回	中世社会と女性	
	第6回	女院と天皇家領荘園	
	第7回	北条政子	
	第8回	日野富子	
	第9回	戦国武将の妻たち	
	第10回	近世社会と女性	
	第11回	江戸城大奥	
	第12回	近世の女帝	
	第13回	近現代社会と女性	
	第14回	近代の皇后と女官たち	
	第15回	女帝・女性宮家問題	
授業概要	日本古代・中世女性史を中心に、古代から近現代までの女性史を通覧してゆきます。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	授業で提示する参考文献の中から関心あるものを見つけ出し、読んでみて下さい。		
テキスト	毎回レジュメを配布します。		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	少しでも気になる人物や事柄があれば、積極的に調べてください。		
評価方法	期末レポート		
参考文献	毎回レジュメに記載します。		
備考			

講義科目名称：日本史概説6（30060）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	必修・教職必修
担当教員			
原 淳一郎			
開放（教養）	高大連携開放科目※	※高校生男女が受講する場合有	授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	本授業の目的は3つある。第1に、歴史に親しんでもらうこと、第2に、文化史とはいかなる学問なのか知ってもらうこと。第3に、自分達が生まれた「日本列島」（「日本」とは限らない）がいかなる歴史を歩んできたかを認識してもらうこと、またはその手がかりを与えることである。本授業ではあまり時代にこだわらず、現代社会とつながる問題意識で多角的な歴史像を紹介したい。歴史学は記憶の学問ではない。考える学問である。ひとつの具体的事実が、どのような社会的背景から引き起こされたのか、私の力の及ぶ限り説明していきたい。
授業計画	<p>第1回 史学とは？文化史とは？民俗学とは？文化人類学とは？</p> <p>第2回 歴史学における過去と現在（マルクス主義と皇国史観）</p> <p>第3回 歴史学における過去と現在（マルクス主義と皇国史観）</p> <p>第4回 稲作の起源と日本人起源論</p> <p>第5回 柳田國男と日本民俗学（ビデオ）</p> <p>第6回 いくつもの日本（東と西の日本文化）</p> <p>第7回 いくつもの日本（北と南の日本文化）</p> <p>第8回 日本国の成立と「日本人」</p> <p>第9回 伊波普猷と沖縄学（ビデオ）</p> <p>第10回 被差別と伝統文化</p> <p>第11回 都市と農村（太閤検地と徳川吉宗・柳田國男・柳宗悦）</p> <p>第12回 国家と統計・調査（『菊と刀』、太平洋戦争史、外国人から見た日本、西洋と日本の差異）</p> <p>第13回 日本人論の展開（『手仕事の日本』、『日本風景論』、『遠野物語』、『ニッポン』・『日本文化私観』、『タテ社会の人間関係』、『甘えの構造』…）</p> <p>第14回 日本人論の展開（『手仕事の日本』、『日本風景論』、『遠野物語』、『ニッポン』・『日本文化私観』、『タテ社会の人間関係』、『甘えの構造』…）</p> <p>第15回 日本人論の展開（『代表的日本人』、『茶の本』・『東洋の理想』、『武士道』）</p>
授業概要	日本文化について様々に思考してきた先人達の書籍を紹介しながら、①日本人と日本国がいかに多様であるか、ということ、②現在の我々にとって常識であることが、必ずしも過去には常識ではないこと、などを知って貰い、受講生各自が、③日本とは何か、日本人とは何か、日本の文化とは何か、ということについて多様な視点から思索してもらう機会とする。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	日頃より読書やテレビ視聴、映画鑑賞を通じて、積極的に情報収集し、日本人、日本国、日本の文化について主体的に考えること
テキスト	すべてプリントを配布します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	できうる限り色々な著書を読んだり原史料に触れる機会をつくりたいと思います。歴史家、思想家、宗教家などの主張を紹介した際には、できうる限りその著書（現代語訳でもよいので）を読んでください。ある地域の話をする場合にはその場所をしっかりと認識してください。固有名詞や専門用語を登場させる場合には耳だけで聞き流さないでください。ちょっと地図帳を開いたりインターネットで調べるだけでもきっと違います。
評価方法	数回（6回程度）の課題で評価します。それぞれ4段階に評価し、平均をとります。その内容の高度さはもちろん、いかに講義中に自分の頭を使って考えたかが伝わるような主体的な取り組み方が窺われるものを評価します。約6回中提出回数が、3回以上（可）、5回以上（良）、6回以上（優）を目安としますが、内容によって1段階上下させることがあります。これは、ただ名前を書いて提出する人、あるいは1行程度しか書かない人と、しっかり考えて書いてくれた人と差をつけるための措置です。

参考文献	佐々木高明『日本文化の多様性』（小学館、2009）をはじめとして、様々な文献、研究を紹介します。興味を抱いたものは是非図書館で手に取ってみてください。
備考	

講義科目名称：外国史1（30070）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	必修・教職必修
担当教員			
鈴木 博之			
開放（教養）			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	古代から現代までテーマ別に中国の歴史を講義する。ただ、通史的な解説は行わないので、前もって概説書などで基本的な知識は準備しておいてもらいたい。中国史に止まらず、世界史的な視点から中国文明のあり方を理解したい。		
授業計画	第1回	時代区分論	
	第2回	黄河文明の誕生	
	第3回	長江文明の発見	
	第4回	古代帝国の成立—秦漢帝国—	
	第5回	『史記』の世界—項羽と劉邦—	
	第6回	中世社会の成立	
	第7回	『三国志演義』の世界	
	第8回	隋唐世界帝国—遣唐使と日本—	
	第9回	近世社会の成立—都市革命—	
	第10回	モンゴル帝国—遊牧国家—	
	第11回	明清時代—紫禁城の黄昏—	
	第12回	銀の世紀—岩見銀山とポトシ銀山—	
	第13回	清の平和—長崎貿易—	
	第14回	中国の近代—上海—	
	第15回	革命の世紀—20世紀—	
授業概要	講義形式で解説する。映像資料も活用する予定である。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	レポートを課すので、そのための下調べを行うことや興味のある時代に関する本を読んでほしい。		
テキスト	使用しない（適宜プリントを配布する）		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	日本とも関連の深い遣唐使なども取り扱う予定なので、日中の社会構造の違いにも留意したい。		
評価方法	チェックテスト（適宜）、レポート数回、定期試験を総合的に判定する。		
参考文献	寺田隆信『物語 中国の歴史』（中公新書1353 1997年）		
備考			

講義科目名称：外国史2（30080）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	必修・教職必修
担当教員			
山崎 彰			
開放（教養）			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	<p>1. ヨーロッパの複数の国の歴史を学ぶことで、ヨーロッパ史について多面的な関心を深めることができるようになる。</p> <p>2. 授業で扱った国の個性が長い歴史の経過から形成されたことを理解し、適切に説明することができるようになる。</p>		
授業計画	第1回	はじめに	
	第2回	古代と中世のイタリア	
	第3回	ルネサンスと近代イタリア	
	第4回	中世フランス	
	第5回	近世フランス	
	第6回	フランス革命と近代フランス	
	第7回	ブリテン島諸地域の形成	
	第8回	連合王国の形成	
	第9回	イギリス植民地帝国	
	第10回	スイス盟約者団	
	第11回	近代スイス連邦国家	
	第12回	中世ドイツ	
	第13回	近世ドイツ	
	第14回	現代ドイツ	
	第15回	まとめ	
授業概要	<p>ヨーロッパの多様な国家を互いに比較し、それぞれの特徴を明確にする。この特徴が中世、場合によっては古代以来、長い時間をかけて形成してきたことを明らかにし、これによってヨーロッパについてのイメージを豊かにする。</p>		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	<p>日頃よりヨーロッパ史に関する書物を読み、この授業のテーマについて主体的・積極的に考えること。</p>		
テキスト	<p>プリント配布</p>		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	<p>ヨーロッパに関する本（歴史書に限らず）をできるだけ多く読んでほしい。</p>		
評価方法	<p>授業への参加度(40%)、期末の理解度確認調査(60%)</p>		
参考文献			
備考			

講義科目名称：古文書学1（30090）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	必修
担当教員			
布施 賢治			
			授業形態：講義・演習

授業のテーマ及び到達目標	歴史を学ぶさい、最も多く依拠されるのは古文書です。古文書には、その時代の政治体制によって、形式・紙質・用語・書体などにそれぞれの特殊性があります。それらの特殊性を理解しながら、できるだけ多くの古文書に接し、その読解力を深めるようにします。		
授業計画	第1回	古文書学とは 1 ～古文書を歴史学から考える、様式論から考える～	
	第2回	古文書学とは 2 ～古文書とは、古文書学の歴史～	
	第3回	古文書学とは 3 ～古文書の作成順序と形態～	
	第4回	公式様文書 ～詔書・勅旨・符・移・牒・解～	
	第5回	公家様文書 1 ～官宣旨・宣旨～	
	第6回	公家様文書 2 ～口宣案・下文～	
	第7回	公家様文書 3 ～書札様文書・奉書・御教書・院宣・綸旨～	
	第8回	鎌倉時代の武家文書 ～下文・下知状～	
	第9回	南北朝・戦国期の武家文書 1 ～御判御教書・書下・判物～	
	第10回	南北朝・戦国期の武家文書 2 ～御内書・印判状～	
	第11回	上申文書 1 ～解文・訴陳状・紛失状・請文～	
	第12回	上申文書 2 ～起請文・軍忠状～	
	第13回	証書類 ～議状・置文・売券・借用状・和与状～	
	第14回	藩政・近代の文書	
	第15回	総復習	
授業概要	講義形式		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	日頃より読書や他の講義の受講を通じて、この授業のテーマについて主体的に考えること。		
テキスト	プリントを配布します。くずし字事典を購入することになりますのでご承知おき下さい（2200円程度です）。購入についての案内は授業中に行います。		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	わかりやすい授業を心がけていきます。疑問点や質問は随時受け付けます。		
評価方法	授業への参加度と期末試験		
参考文献			
備考			

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	選択必修
担当教員			
原 淳一郎（01） 山田 彩起子（02）			
			授業形態：講義・演習

授業のテーマ及び到達目標	原組：前半はかな文字の基礎を固める。後半は、近世文書で使われる書体の読解力を身につける。いわゆる「くずし字」を判読する力を高める。近世から近代を専門とする（しようとする）人向け。 山田組：前半は同じテキスト（かな文字）を使用し、後半はよりかな文字に特化したテキストを利用する。古代から中世を専門とする（しようとする）人向け。
授業計画	<p>第1回 くずし字読解のためのガイダンス、クラス分け</p> <p>第2回 江戸名所図会を読む－「かな」の練習（1）</p> <p>第3回 女今川を読む－「かな」の練習（2）</p> <p>第4回 ルビを振られた文書を読む－「かな」の練習（3）</p> <p>第5回 江戸時代の文体に慣れよう－「かな」の練習（4）</p> <p>第6回 手代の式目を読む－「かな」の練習（5）</p> <p>第7回 小まとめ</p> <p>第8回 宗門人別改帳を読む－「漢字」の練習（1）</p> <p>第9回 交通・旅行に関する文書を読む（1）－「漢字」の練習（2）</p> <p>第10回 交通・旅行に関する文書を読む（2）－「漢字」の練習（3）</p> <p>第11回 交通・旅行に関する文書を読む（3）往来手形など－「漢字」の練習（4）</p> <p>第12回 離縁状を読む</p> <p>第13回 結婚・離婚に関する文書を読む</p> <p>第14回 奉公人請状を読む</p> <p>第15回 借用証文を読む</p>
授業概要	原組（近世文書）、山田組（かな文字）のコピー版を配布し、予習を前提に、解説を加える形で、授業を進める。1回目のガイダンスでクラス分けを行う。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	授業の予習・復習をしっかりとすること。
テキスト	プリントを配布
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	受講生にとっては、くずし字を読むのは、骨が折れることと思います。でも、少し辛抱すれば、ちよつとずつ読めるようになっていきます。予習、復習を大切にしてください。これらをしっかりとやって授業に臨めば、3問目も解けるようになり、特優がとれるはずですよ。
評価方法	期末試験。全体で3問。1問目は初見のかな文字。2問目はテキスト終了範囲から1問。3問目はテキスト未修範囲から1問。2問目がほぼ正解できていれば単位取得可能。あとは1問目、3問目の正答率で「特優」から「可」まで判断する。
参考文献	
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	選択
担当教員			
小林 文雄			

授業のテーマ及び到達目標	1、江戸時代の古文書の読解力を向上させる 2、当時の庶民の生活や文化について理解できるようになる
授業計画	<p>第1回 ガイダンス 授業のすすめ方と、くずし字に慣れる方法を解説します。</p> <p>第2回 江戸時代の版本を読む1ー往来物 実際にくずし字に触れて、読んでみましょう。読むコツをつかんで、次回から古文書の課題を提出してもらいます。</p> <p>第3回 江戸時代の版本を読む2ー往来物 前回の課題の提出と添削。ポイントの説明。次回の課題の提示。</p> <p>第4回 江戸時代の版本を読む3ー江戸のガイドブックと番付 前回の課題の提出と添削。ポイントの説明。次回の課題の提示。</p> <p>第5回 江戸時代の版本を読むー草双紙を眺めよう 前回の課題の提出と添削。ポイントの説明。次回の課題の提示。</p> <p>第6回 庶民の一生（1）通過儀礼に関する記録を読む 婚礼の献立の記録や子どものお祝いの記録などを読みます</p> <p>第7回 庶民の一生（2） 宗門改めと人別送り状</p> <p>第8回 庶民の一生（3） 離縁状</p> <p>第9回 庶民の一生（4） 若者仲間の記録を読む</p> <p>第10回 村の事件簿（1）村掟を読む 村で決めた定めごとを読み、江戸時代の村の様子を見てみます</p> <p>第11回 村の事件簿（2）村の訴訟とさまざまな願書 村の公務にかかわって作成された帳簿から、人相書きや村で起きた事件をとりあげます</p> <p>第12回 村のくらし（1）村びとのお仕事 村びとの仕事や経済にかかわる文書、領収書や売買証文などを読みます</p> <p>第13回 村のくらし（2）わざとまじない</p> <p>第14回 村のくらし（3）楽しみの世界</p> <p>第15回 まとめ</p>
授業概要	古文書の読解を通して、江戸時代の庶民生活の諸相を浮き彫りにしたいと思います。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	テキストの古文書は毎日少しずつ予習してきてください。トピックに関連する文献も紹介するので、できるだけお読みください。
テキスト	古文書の写真と古文書解説用テキストを配布します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	くずし字の辞典があったほうが便利です。講義の最初にくずし字の辞典の種類と使い方について説明します。
評価方法	課題の提出（60%）と期末レポート（40%）で評価します。
参考文献	
備考	質疑応答等は、メール等で行います。

講義科目名称：史学実習1 (30110)

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	1	必修
担当教員			
日本史専任教員			
			授業形態：実習

授業のテーマ及び到達目標	学外の講師を招聘し、最先端の研究成果に基づく講義、および自治体における文化財保護の現状に関する講義などを通じて、個人の卒業研究の参考とし、且つ日本史の専門的知識を生かした職業への理解を深める。また学外の史跡等見学を通じて各地域の歴史、文化、文化財保護の現状への理解を深める。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>2 学内日本史専任教員による講義・実習 3回 古銭・銅鐸等の拓本をとる、など</p> <p>3 学外講師による講義・実習 6回</p> <p>4 学外研修 4回 県内の史跡見学、博物館・資料館見学、など</p> <p>5 まとめ</p>
授業概要	学外の研究者による講義ならびに学外研修 学外研修のうち1回は、1日帰りでの実習を行う
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	休日あるいは長期休暇を利用して、米沢市、山形県、出身地周辺の史跡、博物館を訪れ、祭礼行事に積極的に参加すること
テキスト	なし
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	学外講師および研修先は直前に決定し、すみやかに掲示します。毎回集合場所など変わりますので、掲示に注意してください。 毎回、授業内容に関するコメントを出席カードに書いて提出してもらいます（コメントシートの提出）。
評価方法	コメントシートによる評価70%、日帰り学外研修のレポート30%
参考文献	
備考	

講義科目名称：史学実習2（30120）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	必修
担当教員			
日本史専任教員			
			授業形態：実習

授業のテーマ及び到達目標	学外の講師を招聘し、最先端の研究成果に基づく講義、および自治体における文化財保護の現状に関する講義などを通じて、個人の卒業研究の参考とし、且つ日本史の専門的知識を生かした職業への理解を深める。また学外の史跡等見学を通じて各地域の歴史、文化、文化財の保護の現状への理解を深める。		
授業計画	1	ガイダンス	
	2	学外講師による講義・実習 6回	
	3	学内日本史専任教員による講義・実習 3回	
	4	学外研修 5回 市内史跡・文化財見学、博物館・資料館見学、石碑の拓本をとる実習、など	
	5	夏季休暇中における研修旅行	
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・学外の研究者による講義ならびに学外研修 ・夏季休暇中における研究室ごとの研修旅行 		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	休日あるいは長期休暇を利用して、米沢市、山形県、出身地周辺の史跡、博物館を訪れ、祭礼行事に積極的に参加すること		
テキスト	なし		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	学外講師および研修先は直前に決定し、すみやかに掲示します。毎回集合場所など変わりますので、掲示に注意してください。 毎回、授業内容に関するコメントを出席カードに書いて提出してもらいます（コメントシートの提出）。		
評価方法	コメントシートによる評価70%、研究室ごとの研修旅行のレポート30%		
参考文献			
備考			

講義科目名称：日本史講読1A (30210)

授業コード：

英文科目名称：-

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択必修
担当教員			
吉田 歓			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	古代史の文献史料を読むことを通じて、古代史に関する知識を深めるとともに、文献史料を読む方法、調べる方法を身につけることを目的とする。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス 日本古代史史料総論</p> <p>第2回 受講者による報告と解説(1)</p> <p>第3回 受講者による報告と解説(2)</p> <p>第4回 受講者による報告と解説(3)</p> <p>第5回 受講者による報告と解説(4)</p> <p>第6回 受講者による報告と解説(5)</p> <p>第7回 受講者による報告と解説(6)</p> <p>第8回 受講者による報告と解説(7)</p> <p>第9回 受講者による報告と解説(8)</p> <p>第10回 受講者による報告と解説(9)</p> <p>第11回 受講者による報告と解説(10)</p> <p>第12回 受講者による報告と解説(11)</p> <p>第13回 受講者による報告と解説(12)</p> <p>第14回 受講者による報告と解説(13)</p> <p>第15回 受講者による報告と解説(14)</p>
授業概要	古代史の基本史料の『続日本紀』を読む。受講者各自が分担して調査・報告する形をとる。ここから奈良・平安時代の政治・制度・人物・社会・文化など、さまざまな姿を学びます。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	該当資料について事前に読み調べること。
テキスト	プリントを配布する。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	漢和辞典・国語辞典・歴史事典などで調べてくるのが重要です。面倒くさがらずに、辞書を引きましょう。
評価方法	積極的な授業への参加度（50%）、レポート（50%）
参考文献	新古典文学大系『続日本紀』一～五（岩波書店） 林陸朗編『完訳注釈 続日本紀』（現代思潮社）
備考	

講義科目名称：日本史講読2A (30220)

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択必修
担当教員			
菌部 寿樹			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	1. 中世の文献史料の読解力を身につけること。 2. 中世の政治・社会・文化などに関して認識を深めること。
授業計画	<p>第1回 受講者による調査・報告とそれに対する指導・討論 受講者各自が逐条分担して調査・報告するかたちで、輪読します。 受講者1人あたり、最低でも2回は担当できるようにしたいと思います。</p> <p>第2回 受講者による調査・報告とそれに対する指導・討論</p> <p>第3回 受講者による調査・報告とそれに対する指導・討論</p> <p>第4回 受講者による調査・報告とそれに対する指導・討論</p> <p>第5回 受講者による調査・報告とそれに対する指導・討論</p> <p>第6回 受講者による調査・報告とそれに対する指導・討論</p> <p>第7回 受講者による調査・報告とそれに対する指導・討論</p> <p>第8回 受講者による調査・報告とそれに対する指導・討論</p> <p>第9回 受講者による調査・報告とそれに対する指導・討論</p> <p>第10回 受講者による調査・報告とそれに対する指導・討論</p> <p>第11回 受講者による調査・報告とそれに対する指導・討論</p> <p>第12回 受講者による調査・報告とそれに対する指導・討論</p> <p>第13回 受講者による調査・報告とそれに対する指導・討論</p> <p>第14回 受講者による調査・報告とそれに対する指導・討論</p> <p>第15回 受講者による調査・報告とそれに対する指導・討論</p>
授業概要	中世の王族・伏見宮貞成の日記『看聞日記』を読みます。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	講義前に講義で輪読する箇所を読み込んでおくこと。また講義後に輪読した箇所を再読して下さい。
テキスト	『図書寮叢刊 看聞日記』を用います。講読箇所について、プリントを配布します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	漢字だらけの文体で、最初はとりくみがたい感じがすると思います。しかし、読解の作業により、中世社会の興味深い事象が具体的かつ豊かに理解できるようになるでしょう。自己の担当分だけではなく、他の受講者の担当箇所についても、その読解に関して積極的に取り組むことを期待しています。教員としても、受講生が発言しやすいように工夫したいと思います。
評価方法	期末レポート（80%）、平常点（20%） 平常点においては、読解のための調査をできるかぎり行ったかどうか、積極的に解釈に取り組んだかどうかを中心に評価します。
参考文献	参考文献は、横井清『室町時代の一皇族の生涯』（講談社学術文庫）、位藤邦生『伏見宮貞成の文学』（清文堂）、松岡心平編『看聞日記と中世文化』（森話社）などです。この3冊は、附属図書館にあります。購入する必要はありません。その他の参考文献は講義中に適宜指示します。
備考	

講義科目名称：日本史講読3A (30230)

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択必修
担当教員			
小林 文雄			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	1. 近世史料（江戸時代の文章・文体）に慣れる。 2. 近世の紀行文の読解を通して、奥羽（東北地方）の文化への知見を深める。
授業計画	第1回 近世史料の特徴の解説とテキストの説明 第2回 近世後期の政治・社会状況の解説 第3回 人物と地名の調べ方 第4回 近世史料の読み方（1） 国語辞典・漢和辞典に慣れる 第5回 近世史料の読み方（2） 基本ツールの紹介 第6回 東遊雑記を読む（1） 第7回 東遊雑記を読む（2） 第8回 菅江真澄の日記を読む（1） 第9回 菅江真澄の日記を読む（2） 第10回 菅江真澄の日記を読む（3） 第11回 菅江真澄の日記を読む（4） 第12回 菅江真澄の日記を読む（5） 第13回 菅江真澄の日記を読む（6） 第14回 菅江真澄の日記を読む（7） 第15回 まとめ
授業概要	近世の奥羽地方を旅した人びとの紀行文や日記を取り上げて読む。受講者が、割り当てられた部分を読み、現代語訳する。そこから、近世史の諸問題について考察する。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	あらかじめ受講者にテキストのページを指定しておきますので、該当する箇所を辞書や関連図書で事前に調べておいてください。インターネットでの調べ方については授業で解説します。
テキスト	『菅江真澄全集』未来社より抜粋してコピーしたものを配布 古川古松軒『東遊雑記』（平凡社・東洋文庫版）からの抜粋
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	たくさん質問してください。
評価方法	期末レポート60%、授業での報告40%
参考文献	
備考	

講義科目名称：日本史講読4A (30240)

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択必修
担当教員			
布施 賢治			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	日本近代史の基本的な史料の講読を通じて、近代史の政治・社会・文化に関する知識を高めることを目標とする。		
授業計画	第1回	講読4Aの授業の進め方の解説	
	第2回	講読4Aで読む史料の解説（幕末維新时期・明治期の史料を読みます）	
	第3回	受講生による報告と質疑応答	
	第4回	受講生による報告と質疑応答	
	第5回	受講生による報告と質疑応答	
	第6回	受講生による報告と質疑応答	
	第7回	受講生による報告と質疑応答	
	第8回	受講生による報告と質疑応答	
	第9回	受講生による報告と質疑応答	
	第10回	受講生による報告と質疑応答	
	第11回	受講生による報告と質疑応答	
	第12回	受講生による報告と質疑応答	
	第13回	受講生による報告と質疑応答	
	第14回	受講生による報告と質疑応答	
	第15回	まとめ	
授業概要	演習形式		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	文献研究やアカデミックプレゼンテーションの準備を自主的に進めておくこと。		
テキスト	該当史料のプリントを配布します。		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	わかりやすい授業を心がけていきます。疑問点や質問は随時受け付けます。		
評価方法	授業への参加度（50%）と担当する報告レジュメの内容（50%）。		
参考文献			
備考			

講義科目名称：日本史講読5A (30250)

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択必修
担当教員			
山田 彩起子			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	中世社会を理解するために、当該期の史料の読解力をつけることを目指します。この授業で読む『明月記』の記主藤原定家は歌人として有名ですが、『明月記』の内容は、和歌のことだけでなく、宮中での儀礼や日々の暮らしのことなど盛りだくさんです。また、女房として宮仕えしていた姉妹や娘についての記述も見られるため、『明月記』は当該期の女房について研究する上でも大変貴重な史料です。
授業計画	<p>第1回 『明月記』およびその読解についてのガイダンス</p> <p>第2回 教員による輪読報告及び受講者による第4回目以降の報告担当箇所の設定</p> <p>第3回 教員による輪読報告</p> <p>第4回 受講者による輪読報告とそれに対する質疑応答・解説</p> <p>第5回 受講者による輪読報告とそれに対する質疑応答・解説</p> <p>第6回 受講者による輪読報告とそれに対する質疑応答・解説</p> <p>第7回 受講者による輪読報告とそれに対する質疑応答・解説</p> <p>第8回 受講者による輪読報告とそれに対する質疑応答・解説</p> <p>第9回 受講者による輪読報告とそれに対する質疑応答・解説</p> <p>第10回 受講者による輪読報告とそれに対する質疑応答・解説</p> <p>第11回 受講者による輪読報告とそれに対する質疑応答・解説</p> <p>第12回 受講者による輪読報告とそれに対する質疑応答・解説</p> <p>第13回 受講者による輪読報告とそれに対する質疑応答・解説</p> <p>第14回 受講者による輪読報告とそれに対する質疑応答・解説</p> <p>第15回 受講者による輪読報告とそれに対する質疑応答・解説</p>
授業概要	鎌倉時代の歌人藤原定家の日記『明月記』を輪読します。受講者は毎回レジュメを読みながら、輪読の要領(報告レジュメの作成方法や、史料解釈の際に用いる図書のことなど)を理解して下さい。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	輪読担当箇所以外の記事にも予め目を通しておくこと。
テキスト	『翻刻 明月記』より、輪読箇所をコピーして配布します。
受講生へのメッセージ(授業評価を踏まえた方針など)	内容理解のために、事典や辞書をこまめに引く習慣を身につけましょう。学習方法等、不明なことについては随時質問を受け付けます。
評価方法	授業での報告50%、期末レポート50%
参考文献	明月記研究会編『明月記研究提要』(八木書店、2006年) 稲村榮一『定家『明月記』の物語―書き留められた中世―』(ミネルヴァ書房、2019年) 村井康彦『藤原定家『明月記』の世界』(岩波書店、2020年)
備考	他の受講者の迷惑になりますので、輪読担当者は絶対に無断欠席はしないで下さい。

講義科目名称：日本史講読6A（30260）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択必修
担当教員			
原 淳一郎			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	史料を音読し慣れることで史料読解力を高める。また使用する史料を手掛かりにして、日本の宗教史・文化史などへの理解も深める。		
授業計画	第1回	魂の行方	
	第2回	郷土研究の方法	
	第3回	酒の飲み用の変遷	
	第4回	木綿以前のこと	
	第5回	木綿以前のこと	
	第6回	雪国の春	
	第7回	雪国の春	
	第8回	海上の道	
	第9回	海上の道	
	第10回	海上の道	
	第11回	海上の道	
	第12回	海上の道	
	第13回	ビデオ（南方熊楠と神社合祀令反対運動）	
	第14回	妖怪談義	
	第15回	蝸牛考	
授業概要	柳田国男の著書・論考・手紙の輪読および簡単な討論を通して、日本文化を理解する手がかりとしたいと考えています。また南方熊楠との「山人論争」および近代天皇制国家による神社合祀政策への共闘、あるいは柳田の植民地主義・国家主義的な側面、エロティシズムの排除、実証的な研究方法などを紹介するなどして、柳田という人物への思想的理解、ならびに民俗学の研究手法および先行研究批判の過程をともに学んでいきたいと考えています。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	予習はもちろん、各自の担当箇所はしっかりと調べてきてください。		
テキスト	授業のなかで配布します。ただし人数が少なければ、各自全集などから興味のあるものを選んでもらい皆で読んでいくことも考えています。		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	しっかりと予習をしてきてください。		
評価方法	輪読の様子、課題報告の2点で評価します。		
参考文献			
備考			

講義科目名称：日本史講読1B（30310）

授業コード：

英文科目名称：-

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修
担当教員			
吉田 歓			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	古代史の文献史料を読むことを通じて、古代史に関する知識を深めるとともに、文献史料を読む方法、調べる方法を身につけることを目的とする。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス 文献史料と出土文字資料の解説</p> <p>第2回 受講者による報告と解説(1)</p> <p>第3回 受講者による報告と解説(2)</p> <p>第4回 受講者による報告と解説(3)</p> <p>第5回 受講者による報告と解説(4)</p> <p>第6回 受講者による報告と解説(5)</p> <p>第7回 受講者による報告と解説(6)</p> <p>第8回 受講者による報告と解説(7)</p> <p>第9回 受講者による報告と解説(8)</p> <p>第10回 受講者による報告と解説(9)</p> <p>第11回 受講者による報告と解説(10)</p> <p>第12回 受講者による報告と解説(11)</p> <p>第13回 受講者による報告と解説(12)</p> <p>第14回 受講者による報告と解説(13)</p> <p>第15回 受講者による報告と解説(14)</p>
授業概要	古代史の基本史料の『続日本紀』を読む。受講者各自が分担して調査・報告する形をとる。ここから奈良・平安時代の政治・制度・人物・社会・文化など、さまざまな姿を学びます。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	該当資料について事前に読み調べること。
テキスト	プリントを配付する。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	漢和辞典・国語辞典・歴史事典などで調べてくることが重要です。面倒くさがらずに、辞書を引きましょう。
評価方法	積極的な授業への参加度（50%）、レポート（50%）
参考文献	新古典文学大系『続日本紀』一～五（岩波書店） 林陸朗編『完訳注釈 続日本紀』（現代思潮社）
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修
担当教員			
菌部 寿樹			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	1. 中世の文献史料の読解力を身につけること。 2. 中世の政治・社会・文化などに関して認識を深めること。
授業計画	<p>第1回 受講者による調査・報告とそれに対する指導・討論 受講者各自が逐条分担して調査・報告するかたちで、輪読します。 受講者1人あたり、最低でも2回は担当できるようにしたいと思います。</p> <p>第2回 受講者による調査・報告とそれに対する指導・討論</p> <p>第3回 受講者による調査・報告とそれに対する指導・討論</p> <p>第4回 受講者による調査・報告とそれに対する指導・討論</p> <p>第5回 受講者による調査・報告とそれに対する指導・討論</p> <p>第6回 受講者による調査・報告とそれに対する指導・討論</p> <p>第7回 受講者による調査・報告とそれに対する指導・討論</p> <p>第8回 受講者による調査・報告とそれに対する指導・討論</p> <p>第9回 受講者による調査・報告とそれに対する指導・討論</p> <p>第10回 受講者による調査・報告とそれに対する指導・討論</p> <p>第11回 受講者による調査・報告とそれに対する指導・討論</p> <p>第12回 受講生による講読とそれに対する指導・討論</p> <p>第13回 受講者による調査・報告とそれに対する指導・討論</p> <p>第14回 受講者による調査・報告とそれに対する指導・討論</p> <p>第15回 受講者による調査・報告とそれに対する指導・討論</p>
授業概要	中世の王族・伏見宮貞成の日記『看聞日記』を読みます。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	講義前に講義で輪読する箇所を読み込んでおくこと。また講義後に輪読した箇所を再読して下さい。
テキスト	『図書寮叢刊 看聞日記』を用います。講読箇所について、プリントを配布します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	漢字だらけの文体で、最初はとりくみがたい感じがすると思います。しかし、読解の作業により、中世社会の興味深い事象が具体的かつ豊かに理解できるようになるでしょう。自己の担当分だけではなく、他の受講者の担当箇所についても、その読解に関して積極的に取り組むことを期待しています。教員としても、受講生が発言しやすいように工夫したいと思います。
評価方法	期末レポート（80%）、平常点（20%） 平常点においては、読解のための調査をできるかぎり行ったかどうか、積極的に解釈に取り組んだかどうかを中心に評価します。
参考文献	参考文献は、横井清『室町時代の一皇族の生涯』（講談社学術文庫）、位藤邦生『伏見宮貞成の文学』（清文堂）、松岡心平編『看聞日記と中世文化』（森話社）などです。この3冊は、附属図書館にあります。購入する必要はありません。その他の参考文献は講義中に適宜指示します。
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修
担当教員			
小林 文雄			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	1. 近世史料の読解力を高める。 2. 近世史の基本ツールの活用法を身につけ、歴史学の調査方法と手順を習得する。		
授業計画	第1回	ガイダンス 授業の概要と目標	
	第2回	近世史料の特徴	
	第3回	近世史料を読んでみよう 漢文の訓読法 候文の読み方	
	第4回	史料の背景を調べてみよう 史料読解の際の留意点、人物や地名などの調べ方の解説	
	第5回	『耳囊』の作者と時代背景 江戸幕府の諸制度 江戸時代後期の社会状況	
	第6回	『耳囊』の輪読 (1)	
	第7回	『耳囊』の輪読 (2)	
	第8回	『耳囊』の輪読 (3)	
	第9回	『耳囊』の輪読 (4)	
	第10回	『耳囊』の輪読 (5)	
	第11回	『耳囊』の輪読 (6)	
	第12回	『耳囊』の輪読 (7)	
	第13回	『甲子夜話』を読む (1)	
	第14回	『甲子夜話』を読む (2)	
	第15回	まとめ	
授業概要	近世の史料を選び、輪読します。『耳囊』『江戸町触集成』そのほかを使います。 最初の5回は、ガイダンス用資料、テキスト、テキストの読みだし文などを用意します。近世の文体や読み方に慣れるために、練習問題も用意します。 6回目からは、受講生の報告となります。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	あらかじめ受講者にテキストのページを指定しておきますので、該当する箇所を辞書や関連図書で事前に調べておいてください。 毎回、授業時間前に、テキストに関する疑問点やコメントを提出してもらいます。よく読み込んだうえで授業に臨んでください。		
テキスト	根岸鎮衛『耳袋』 プリントを配布 参考資料として、松浦静山『甲子夜話』からの抜粋も適宜配布する		
受講生へのメッセージ (授業評価を踏まえた方針など)	『耳囊』は、近世後期の幕府の役人が雑話・綺談を集めてまとめた随筆集で、当時の庶民や武士の生活感情をうかがうことができる記録です。ぜひ、積極的に授業に参加して、史料のなかから面白いテーマを見つけてください。		
評価方法	授業での報告40%、毎回提出してもらったコメントシート30%、期末レポート30% ただし、5回目までの練習問題は、コメントシートから除きます。		
参考文献			
備考			

講義科目名称：日本史講読4B（30340）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修
担当教員			
布施 賢治			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	日本近代史の基本的な史料の講読を通じて、近代史の政治・社会・文化に関する知識を高めることを目標とする。		
授業計画	第1回	講読4Bの授業の進め方の解説	
	第2回	講読4Bで読む史料の解説（大正期・昭和期の史料を読みます）	
	第3回	受講生による報告と質疑応答	
	第4回	受講生による報告と質疑応答	
	第5回	受講生による報告と質疑応答	
	第6回	受講生による報告と質疑応答	
	第7回	受講生による報告と質疑応答	
	第8回	受講生による報告と質疑応答	
	第9回	受講生による報告と質疑応答	
	第10回	受講生による報告と質疑応答	
	第11回	受講生による報告と質疑応答	
	第12回	受講生による報告と質疑応答	
	第13回	受講生による報告と質疑応答	
	第14回	受講生による報告と質疑応答	
	第15回	まとめ	
授業概要	演習形式		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	文献研究やアカデミックプレゼンテーションの準備を自主的に進めておくこと。		
テキスト	該当史料のプリントを配布します。		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	わかりやすい授業を心がけていきます。疑問点や質問は随時受け付けます。		
評価方法	授業への参加度（50％）と担当する報告レジュメの内容（50％）。		
参考文献			
備考			

講義科目名称：日本史講読5B（30350）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修
担当教員			
山田 彩起子			

授業のテーマ及び到達目標	中世社会を理解するために、当該期の史料の読解力をつけることを目指します。この授業で読む『明月記』の記主藤原定家は歌人として有名ですが、『明月記』の内容は、和歌のことだけでなく、宮中での儀礼や日々の暮らしのことなど盛りだくさんです。また、女房として宮仕えしていた姉妹や娘についての記述も見られるため、『明月記』は当該期の女房について研究する上でも大変貴重な史料です。
授業計画	<p>第1回 『明月記』およびその読解についてのガイダンス</p> <p>第2回 教員による輪読報告及び受講者による報告担当箇所の決定</p> <p>第3回 教員による輪読報告</p> <p>第4回 受講者による輪読報告とそれに対する質疑応答・解説</p> <p>第5回 受講者による輪読報告とそれに対する質疑応答・解説</p> <p>第6回 受講者による輪読報告とそれに対する質疑応答・解説</p> <p>第7回 受講者による輪読報告とそれに対する質疑応答・解説</p> <p>第8回 受講者による輪読報告とそれに対する質疑応答・解説</p> <p>第9回 受講者による輪読報告とそれに対する質疑応答・解説</p> <p>第10回 受講者による輪読報告とそれに対する質疑応答・解説</p> <p>第11回 受講者による輪読報告とそれに対する質疑応答・解説</p> <p>第12回 受講者による輪読報告とそれに対する質疑応答・解説</p> <p>第13回 受講者による輪読報告とそれに対する質疑応答・解説</p> <p>第14回 受講者による輪読報告とそれに対する質疑応答・解説</p> <p>第15回 受講者による輪読報告とそれに対する質疑応答・解説</p>
授業概要	鎌倉時代の歌人藤原定家の日記『明月記』を輪読します。受講者は毎回レジュメを読みながら、輪読の要領（報告レジュメの作成方法や、史料解釈の際に用いる図書のことなど）を理解して下さい。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	輪読担当箇所以外の記事にも予め目を通しておくこと。
テキスト	『翻刻 明月記』より、輪読箇所をコピーして配布します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	内容理解のために、事典や辞書をこまめに引く習慣を身につけましょう。学習方法等、不明なことについては随時質問を受け付けます。
評価方法	授業での報告50%、期末レポート50%
参考文献	明月記研究会編『明月記研究提要』（八木書店、2006年） 稲村榮一『定家『明月記』の物語―書き留められた中世―』（ミネルヴァ書房、2019年） 村井康彦『藤原定家『明月記』の世界』（岩波書店、2020年）
備考	他の受講者の迷惑となりますので、輪読担当者は絶対に無断欠席はしないで下さい。

講義科目名称：日本史講読6B（30360）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修
担当教員			
原 淳一郎			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	史料を解読し、音読し、史料に慣れることで史料読解力を高める。また使用する史料を手掛かりにして、日本の宗教史・文化史などへの理解も深める。
授業計画	<p>第1回 授業内容のガイダンス</p> <p>第2回 「旅行用心集」の原文による輪読</p> <p>第3回 「旅行用心集」の原文による輪読</p> <p>第4回 「旅行用心集」の原文による輪読</p> <p>第5回 「旅行用心集」の原文による輪読</p> <p>第6回 「旅行用心集」の原文による輪読</p> <p>第7回 「旅行用心集」の原文による輪読</p> <p>第8回 「旅行用心集」の原文による輪読</p> <p>第9回 「成田道中膝栗毛」の輪読</p> <p>第10回 「成田道中膝栗毛」の輪読</p> <p>第11回 「伊勢物語」の輪読</p> <p>第12回 「伊勢物語」の輪読</p> <p>第13回 近世の農民による「伊勢道中日記」の輪読</p> <p>第14回 近世の農民が書いた「伊勢道中日記」の輪読</p> <p>第15回 「東海道名所記」の輪読</p>
授業概要	『旅行用心集』のほか旅行史に関連する史料をもとに、毎回受講生による輪読および関連する課題報告（要レジュメ作成）をもとに授業を進めます。現在の予定では、『旅行用心集』のほか『成田道中膝栗毛』『伊勢物語（東下りの段）』、往来手形、関所手形、実際に旅行した人が書いた道中日記などを扱う予定です。この講義では、大半のテキストは翻刻されていない史料ですので、古文書の読解力を高めることも目的としています。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	予習・復習をしてきてください。
テキスト	授業のなかで随時配布する。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	大半はくずし字のテキストを使用しますので、しっかりと予習をしてきてください。
評価方法	輪読（読んでもらえば、予習の有無は大体分かります）、課題報告の2点で評価します。
参考文献	
備考	

講義科目名称：日本史特殊研究1A (30410)

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	選択必修
担当教員			
吉田 歓			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	古代史の多様な文献史料にふれるとともに、古代の政治・社会・地域・文化についての理解を深める。あわせて古代史料の調査方法を身につけることを目標とする。
授業計画	<p>第1回 律令の編纂について解説</p> <p>第2回 受講者による報告 1</p> <p>第3回 受講者による報告 2</p> <p>第4回 受講者による報告 3</p> <p>第5回 受講者による報告 4</p> <p>第6回 受講者による報告 5</p> <p>第7回 受講者による報告 6</p> <p>第8回 受講者による報告 7</p> <p>第9回 受講者による報告 8</p> <p>第10回 受講者による報告 9</p> <p>第11回 受講者による報告 1 0</p> <p>第12回 受講者による報告 1 1</p> <p>第13回 受講者による報告 1 2</p> <p>第14回 受講者による報告 1 3</p> <p>第15回 受講者による報告 1 4</p>
授業概要	日本思想大系本『律令』を読む。分担して担当者を決め、ゼミ形式で行う。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	該当する史料について、予め読み理解すること。
テキスト	日本思想大系本『律令』（コピーして配布する）
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	古代史料の読み方、調べ方を身につけてもらいたい。 なお、「日本史特殊研究 1 B」「日本史演習 1 A・B」とあわせて受講すること。
評価方法	積極的な授業への参加度（50%）、報告（50%）
参考文献	
備考	

講義科目名称：日本史特殊研究2A（30420）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	選択必修
担当教員			
菌部 寿樹			

授業のテーマ及び到達目標	中世史に対する深い理解を得ること。		
授業計画	第1回	『吾妻鏡』の分担講読とそれに対する指導・討論 『吾妻鏡』を輪読します。	
	第2回	『吾妻鏡』の分担講読とそれに対する指導・討論	
	第3回	『吾妻鏡』の分担講読とそれに対する指導・討論	
	第4回	『吾妻鏡』の分担講読とそれに対する指導・討論	
	第5回	『吾妻鏡』の分担講読とそれに対する指導・討論	
	第6回	『吾妻鏡』の分担講読とそれに対する指導・討論	
	第7回	『吾妻鏡』の分担講読とそれに対する指導・討論	
	第8回	『吾妻鏡』の分担講読とそれに対する指導・討論	
	第9回	『吾妻鏡』の分担講読とそれに対する指導・討論	
	第10回	『吾妻鏡』の分担講読とそれに対する指導・討論	
	第11回	『吾妻鏡』の分担講読とそれに対する指導・討論	
	第12回	『吾妻鏡』の分担講読とそれに対する指導・討論	
	第13回	『吾妻鏡』の分担講読とそれに対する指導・討論	
	第14回	『吾妻鏡』の分担講読とそれに対する指導・討論	
	第15回	『吾妻鏡』の分担講読とそれに対する指導・討論	
授業概要	中世社会史に関する主要な史料を、ゼミ形式で解読し考察します。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	講義前後に『吾妻鏡』（新訂増補国史大系）の当該箇所を読み込んで、理解を深めて下さい。		
テキスト	『吾妻鏡』（新訂増補国史大系）のコピーを配付します。		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	中世史の面白さを、より深く知ってほしいと思います。また、調査研究することの難しさ・楽しさ、そして発見することの喜びを味わってください。 ゼミ形式なので、受講生の積極的な発言を期待します。教員としても、受講生が発言しやすいように工夫したいと思います。		
	日本史演習2Aと密接に関連させて授業をしますので、あわせて受講してください。		
評価方法	平常点。講読分担箇所の調査・解読の状況や、ゼミ討論への取り組みなどを評価します。		
参考文献	『吾妻鏡必携』（吉川弘文館、2008年）など		
備考			

講義科目名称：日本史特殊研究3A (30430)

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	選択必修
担当教員			
小林 文雄			

授業のテーマ及び到達目標	1. 近世史料の読解方法を修得する。 2. 近世史の研究方法を身につける
授業計画	<p>第1回 近世史料についての解説</p> <p>第2回 近世史の基本的な調査方法についての解説</p> <p>第3回 受講者各自の報告と質疑応答</p> <p>第4回 受講者各自の報告と質疑応答</p> <p>第5回 受講者各自の報告と質疑応答</p> <p>第6回 受講者各自の報告と質疑応答</p> <p>第7回 受講者各自の報告と質疑応答</p> <p>第8回 受講者各自の報告と質疑応答</p> <p>第9回 受講者各自の報告と質疑応答</p> <p>第10回 受講者各自の報告と質疑応答</p> <p>第11回 受講者各自の報告と質疑応答</p> <p>第12回 史跡見学・調査</p> <p>第13回 史跡見学・調査</p> <p>第14回 史跡見学・調査</p> <p>第15回 まとめ</p>
授業概要	受講生各自が関心を持つ近世史料を選び、それについて調査・報告する。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	あらかじめ受講者にテキストのページを指定しておきますので、該当する箇所を辞書や関連図書で事前に調べておいてください。
テキスト	受講生の関心に合わせて決めたいと思います。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	「日本史特殊研究3B」、「日本史演習3A」、「日本史演習3B」と連動させた授業を行いますので、あわせて受講してください。
評価方法	授業での報告60%、討論への参加度40%
参考文献	
備考	

講義科目名称：日本史特殊研究4A（30440）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	選択必修
担当教員			
布施 賢治			

授業のテーマ及び到達目標	日本近代史に関する史料の講読を通じて、日本近代史の諸問題に対する理解を深める。		
授業計画	第1回	テキストの佐賀藩士牟田文之助の幕末期における剣術修業日記である『諸国廻歴日録』（東北地方修業部分）の解説	
	第2回	幕末維新期の武士の武術修業と諸藩の受入れ体制の問題、武術の他流試合が幕末維新期の政治に与えた影響の解説	
	第3回	受講生による報告と質疑応答（水戸藩～仙台藩まで）	
	第4回	受講生による報告と質疑応答（水戸藩～仙台藩まで）	
	第5回	受講生による報告と質疑応答（水戸藩～仙台藩まで）	
	第6回	受講生による報告と質疑応答（水戸藩～仙台藩まで）	
	第7回	受講生による報告と質疑応答（水戸藩～仙台藩まで）	
	第8回	受講生による報告と質疑応答（水戸藩～仙台藩まで）	
	第9回	受講生による報告と質疑応答（水戸藩～仙台藩まで）	
	第10回	受講生による報告と質疑応答（水戸藩～仙台藩まで）	
	第11回	受講生による報告と質疑応答（水戸藩～仙台藩まで）	
	第12回	受講生による報告と質疑応答（水戸藩～仙台藩まで）	
	第13回	受講生による報告と質疑応答（水戸藩～仙台藩まで）	
	第14回	受講生による報告と質疑応答（水戸藩～仙台藩まで）	
	第15回	まとめ	
授業概要	演習形式		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	文献研究やアカデミックプレゼンテーションの準備を自主的に進めておくこと。		
テキスト	プリント等を配布します。		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	日本史特殊研究4B、日本史演習4A・4Bと関連して授業を行うので、あわせて受講してください。		
評価方法	授業への参加度（50%）と担当する報告レジュメの内容（50%）。		
参考文献			
備考			

講義科目名称：日本史特殊研究5A (30450)

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	選択必修
担当教員			
山田 彩起子			

授業のテーマ及び到達目標	平安時代～鎌倉時代の貴族の日記の中から主に、婚姻・后妃・女房等、女性に関わる記事を読みながら、当時の貴族社会の女性について理解を深めることを目指します。
授業計画	<p>第1回 教員によるガイダンス及び各受講者の報告担当史料の決定</p> <p>第2回 教員による報告</p> <p>第3回 受講者による報告とそれに対する質疑応答・解説</p> <p>第4回 受講者による報告とそれに対する質疑応答・解説</p> <p>第5回 受講者による報告とそれに対する質疑応答・解説</p> <p>第6回 受講者による報告とそれに対する質疑応答・解説</p> <p>第7回 受講者による報告とそれに対する質疑応答・解説</p> <p>第8回 受講者による輪読報告とそれに対する質疑応答・解説</p> <p>第9回 受講者による報告とそれに対する質疑応答・解説</p> <p>第10回 受講者による報告とそれに対する質疑応答・解説</p> <p>第11回 受講者による報告とそれに対する質疑応答・解説</p> <p>第12回 受講者による報告とそれに対する質疑応答・解説</p> <p>第13回 受講者による報告とそれに対する質疑応答・解説</p> <p>第14回 受講者による報告とそれに対する質疑応答・解説</p> <p>第15回 受講者による報告とそれに対する質疑応答・解説</p>
授業概要	平安時代及び鎌倉時代の貴族の日記を受講者各自の報告担当箇所を決めて読みます。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	報告担当箇所以外の記事にも予め目を通しておくこと。
テキスト	史料はコピーして配布します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	日本史特殊研究5B、日本史演習5A・5Bと関連する授業になりますので、あわせて受講してください。
評価方法	授業での報告レジュメの内容60%、討論への参加度40%
参考文献	
備考	

講義科目名称：日本史特殊研究6A（30460）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	選択必修
担当教員			
原 淳一郎			

授業のテーマ及び到達目標	置賜地方を事例として地域史の手法を学び、将来的に学生一人一人がそれぞれ生活する地域で地域史の担い手となるようにしていきたいと考えています。また1年生で受講して形成した基礎的な古文書解読能力をさらに高めることも考えています。
授業計画	<p>第1回 古文書史料の整理方法と翻刻作業の説明</p> <p>第2回 置賜に関する古文書整理と翻刻作業 毎年受講者の解読力、解読する古文書の難易度、厚さによって進度は変わります。ただしできるだけ作業は進めていきたいと考えています。</p> <p>第3回 置賜に関する古文書整理と翻刻作業</p> <p>第4回 置賜に関する古文書整理と翻刻作業</p> <p>第5回 置賜に関する古文書整理と翻刻作業</p> <p>第6回 置賜に関する古文書整理と翻刻作業</p> <p>第7回 置賜に関する古文書整理と翻刻作業</p> <p>第8回 置賜に関する古文書整理と翻刻作業</p> <p>第9回 置賜に関する古文書整理と翻刻作業</p> <p>第10回 置賜に関する古文書整理と翻刻作業</p> <p>第11回 置賜に関する古文書整理と翻刻作業</p> <p>第12回 置賜に関する古文書整理と翻刻作業</p> <p>第13回 置賜に関する古文書整理と翻刻作業</p> <p>第14回 置賜に関する古文書整理と翻刻作業</p> <p>第15回 置賜に関する古文書整理と翻刻作業</p>
授業概要	置賜地方に関する古文書の翻刻、もしくは古文書の目録化作業を通じて、地域史研究の意義や方法を学ぶ。積極的に米沢市や山形県・会津地方の民俗行事や伝統工芸・特産物の見学・調査、地域住民との交流に出かけたいと考えています。もし可能であれば、民俗調査にも行ければと考えています。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	しっかり予習してきてください。
テキスト	置賜地方を中心とする地域に残る近世・近代文書
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	毎年受講者の解読力によって進度は変わります。短期的には、日本史・歴史学の学科へ編入する場合は、近世文書を読めることは必須条件ですし、博物館・史料館への勤務も同様です。長期的には、職に関係なく、古文書を読める人が1人でも地域にいることはその地域の文化力を高めることだと信じています。是非解読力を高めましょう。
評価方法	ゼミでの主体的な取り組みと、共同作業における担当部分の提出の有無、内容で評価します。
参考文献	
備考	

講義科目名称：日本史特殊研究1B（30510）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	2	選択必修
担当教員			
吉田 歆			

授業のテーマ及び到達目標	古代史の多様な文献史料にふれるとともに、古代の政治・社会・地域・文化についての理解を深める。あわせて古代史料の調査方法を身につけることを目標とする。
授業計画	<p>第1回 古代史史料と律令についての解説</p> <p>第2回 受講者による報告 1</p> <p>第3回 受講者による報告 2</p> <p>第4回 受講者による報告 3</p> <p>第5回 受講者による報告 4</p> <p>第6回 受講者による報告 5</p> <p>第7回 受講者による報告 6</p> <p>第8回 受講者による報告 7</p> <p>第9回 受講者による報告 8</p> <p>第10回 受講者による報告 9</p> <p>第11回 受講者による報告 1 0</p> <p>第12回 受講者による報告 1 1</p> <p>第13回 受講者による報告 1 2</p> <p>第14回 受講者による報告 1 3</p> <p>第15回 受講者による報告 1 4</p>
授業概要	日本思想大系本『律令』を読む。分担して担当者を決め、ゼミ形式で行う。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	該当する史料について、予め読み理解すること。
テキスト	日本思想大系本『律令』（コピーして配布する）
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	古代史料の読み方、調べ方を身につけてもらいたい。 なお、「日本史特殊研究 1 A」「日本史演習 1 A・B」とあわせて受講すること。
評価方法	積極的な授業への参加度（50%）、報告（50%）
参考文献	
備考	

講義科目名称：日本史特殊研究2B（30520）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	2	選択必修
担当教員			
菌部 寿樹			

授業のテーマ及び到達目標	中世史に対する深い理解を得ること。		
授業計画	第1回	『吾妻鏡』の分担講読とそれに対する指導・討論 『吾妻鏡』を輪読します。	
	第2回	『吾妻鏡』の分担講読とそれに対する指導・討論	
	第3回	『吾妻鏡』の分担講読とそれに対する指導・討論	
	第4回	『吾妻鏡』の分担講読とそれに対する指導・討論	
	第5回	『吾妻鏡』の分担講読とそれに対する指導・討論	
	第6回	『吾妻鏡』の分担講読とそれに対する指導・討論	
	第7回	『吾妻鏡』の分担講読とそれに対する指導・討論	
	第8回	『吾妻鏡』の分担講読とそれに対する指導・討論	
	第9回	『吾妻鏡』の分担講読とそれに対する指導・討論	
	第10回	『吾妻鏡』の分担講読とそれに対する指導・討論	
	第11回	『吾妻鏡』の分担講読とそれに対する指導・討論	
	第12回	『吾妻鏡』の分担講読とそれに対する指導・討論	
	第13回	『吾妻鏡』の分担講読とそれに対する指導・討論	
	第14回	『吾妻鏡』の分担講読とそれに対する指導・討論	
	第15回	『吾妻鏡』の分担講読とそれに対する指導・討論	
授業概要	中世社会史に関する主要な史料を、ゼミ形式で解読し考察します。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	講義前後に『吾妻鏡』（新訂増補国史大系）の当該箇所を読み込んで、理解を深めて下さい。		
テキスト	『吾妻鏡』（新訂増補国史大系）のコピーを配付します。		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	中世史の面白さを、より深く知ってほしいと思います。また、調査研究することの難しさ・楽しさ、そして発見することの喜びを味わってください。 ゼミ形式なので、受講生の積極的な発言を期待します。教員としても、受講生が発言しやすいように工夫したいと思います。		
	日本史演習2Bと密接に関連させて授業をしますので、あわせて受講してください。		
評価方法	平常点。 講読分担箇所の調査・解読の状況や、ゼミ討論への取り組みなどを評価します。		
参考文献	『吾妻鏡必携』（吉川弘文館、2008年）など		
備考			

講義科目名称：日本史特殊研究3B (30530)

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	2	選択必修
担当教員			
小林 文雄			

授業のテーマ及び到達目標	1. 近世史料の読解力を高め、近世史についての理解を深める。 2. 史料調査の方法を身につける
授業計画	<p>第1回 近世史料についての解説</p> <p>第2回 受講者各自の報告と質疑応答</p> <p>第3回 受講者各自の報告と質疑応答</p> <p>第4回 受講者各自の報告と質疑応答</p> <p>第5回 受講者各自の報告と質疑応答</p> <p>第6回 受講者各自の報告と質疑応答</p> <p>第7回 受講者各自の報告と質疑応答</p> <p>第8回 受講者各自の報告と質疑応答</p> <p>第9回 受講者各自の報告と質疑応答</p> <p>第10回 受講者各自の報告と質疑応答</p> <p>第11回 受講者各自の報告と質疑応答</p> <p>第12回 史料整理、撮影方法の解説</p> <p>第13回 史料整理、撮影方法の解説</p> <p>第14回 史料整理、撮影方法の解説</p> <p>第15回 まとめ</p>
授業概要	受講生各自が関心を持つ近世史料を選び、それについて調査・報告する。1～2回程度、史料調査の方法について講義し、史料整理、撮影などを体験する。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	あらかじめ受講者にテキストのページを指定しておきますので、該当する箇所を辞書や関連図書で事前に調べておいてください。
テキスト	受講生の関心に合わせて決めたいと思います。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	教室での授業が中心となります。希望ですが、実際の史料調査にも出かけることができれば、と考えています。なお、「日本史特殊研究3A」、「日本史演習3A」、「日本史演習3B」と連動させた授業を行いますので、あわせて受講してください。
評価方法	授業での報告60%、討論への参加度40%
参考文献	
備考	

講義科目名称：日本史特殊研究4B（30540）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	2	選択必修
担当教員			
布施 賢治			

授業のテーマ及び到達目標	日本近代史に関する史料の講読を通じて、日本近代史の諸問題に対する理解を深める。		
授業計画	第1回	テキストの佐賀藩士牟田文之助の幕末期における剣術修業日記である『諸国廻歴日録』（東北地方修業部分）の解説	
	第2回	幕末維新期の武士の武術修業と諸藩の受入れ体制の問題、武術の他流試合が幕末維新期の政治に与えた影響の解説	
	第3回	受講生による報告と質疑応答（秋田藩から新発田藩まで）	
	第4回	受講生による報告と質疑応答（秋田藩から新発田藩まで）	
	第5回	受講生による報告と質疑応答（秋田藩から新発田藩まで）	
	第6回	受講生による報告と質疑応答（秋田藩から新発田藩まで）	
	第7回	受講生による報告と質疑応答（秋田藩から新発田藩まで）	
	第8回	受講生による報告と質疑応答（秋田藩から新発田藩まで）	
	第9回	受講生による報告と質疑応答（秋田藩から新発田藩まで）	
	第10回	受講生による報告と質疑応答（秋田藩から新発田藩まで）	
	第11回	受講生による報告と質疑応答（秋田藩から新発田藩まで）	
	第12回	受講生による報告と質疑応答（秋田藩から新発田藩まで）	
	第13回	受講生による報告と質疑応答（秋田藩から新発田藩まで）	
	第14回	受講生による報告と質疑応答（秋田藩から新発田藩まで）	
	第15回	まとめ	
授業概要	演習形式		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	文献研究やアカデミックプレゼンテーションの準備を自主的に進めておくこと。		
テキスト	プリント等を配布します。		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	日本史特殊研究4A、日本史演習4A・4Bと関連して授業を行うので、あわせて受講してください。		
評価方法	授業への参加度（50%）と担当する報告レジュメの内容（50%）。		
参考文献			
備考			

講義科目名称：日本史特殊研究5B (30550)

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	2	選択必修
担当教員			
山田 彩起子			

授業のテーマ及び到達目標	平安時代～鎌倉時代の貴族の日記の中から主に、婚姻・后妃・女房等、女性に関わる記事を読みながら、当時の貴族社会の女性について理解を深めることを目指します。
授業計画	<p>第1回 受講者による輪読報告とそれに対する質疑応答・解説</p> <p>第2回 受講者による輪読報告とそれに対する質疑応答・解説</p> <p>第3回 受講者による輪読報告とそれに対する質疑応答・解説</p> <p>第4回 受講者による輪読報告とそれに対する質疑応答・解説</p> <p>第5回 受講者による輪読報告とそれに対する質疑応答・解説</p> <p>第6回 受講者による輪読報告とそれに対する質疑応答・解説</p> <p>第7回 受講者による輪読報告とそれに対する質疑応答・解説</p> <p>第8回 受講者による輪読報告とそれに対する質疑応答・解説</p> <p>第9回 受講者による輪読報告とそれに対する質疑応答・解説</p> <p>第10回 受講者による輪読報告とそれに対する質疑応答・解説</p> <p>第11回 受講者による輪読報告とそれに対する質疑応答・解説</p> <p>第12回 受講者による輪読報告とそれに対する質疑応答・解説</p> <p>第13回 受講者による輪読報告とそれに対する質疑応答・解説</p> <p>第14回 受講者による輪読報告とそれに対する質疑応答・解説</p> <p>第15回 受講者による輪読報告とそれに対する質疑応答・解説</p>
授業概要	日本史特殊研究5Aに引き続き、平安時代～鎌倉時代の貴族の日記を読みます。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	報告担当箇所以外の記事にも予め目を通しておくこと。
テキスト	史料はコピーして配布します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	日本史特殊研究5A、日本史演習5A・5Bと関連する授業になりますので、あわせて受講してください。
評価方法	授業での報告内容60%、討論への参加度40%
参考文献	
備考	

講義科目名称：日本史特殊研究6B (30560)

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	2	選択必修
担当教員			
原 淳一郎			

授業のテーマ及び到達目標	置賜地方を事例として地域史の手法を学び、将来的に学生一人一人がそれぞれ生活する地域で地域史の担い手となるようにしていきたいと考えています。また1年生で受講して形成した基礎的な古文書解読能力をさらに高めることも考えています。		
授業計画	第1回	古文書史料の整理方法と翻刻作業の説明	
	第2回	古文書整理と翻刻作業 毎年受講者の解読力、解読する古文書の難易度、厚さによって進度は変わります。ただしできるだけ作業は進めていきたいと考えています。	
	第3回	古文書整理と翻刻作業	
	第4回	古文書整理と翻刻作業	
	第5回	古文書整理と翻刻作業	
	第6回	古文書整理と翻刻作業	
	第7回	古文書整理と翻刻作業	
	第8回	古文書整理と翻刻作業	
	第9回	古文書整理と翻刻作業	
	第10回	古文書整理と翻刻作業	
	第11回	古文書整理と翻刻作業	
	第12回	古文書整理と翻刻作業	
	第13回	古文書整理と翻刻作業	
	第14回	古文書整理と翻刻作業	
	第15回	古文書整理と翻刻作業	
授業概要	置賜地方に関する古文書の翻刻、もしくは古文書の目録化作業を通じて、地域史研究の意義や方法を学ぶ。積極的に米沢市や山形県・会津地方の民俗行事や伝統工芸・特産物の見学・調査、地域住民との交流に出かけたいと考えています。もし可能であれば、民俗調査にも行ければと考えています。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	しっかり予習してきてください。		
テキスト	置賜地方を中心とする地域に残る近世・近代文書		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	毎年受講者の解読力によって進度は変わります。短期的には、日本史・歴史学の学科へ編入する場合は、近世文書を読むことは必須条件ですし、博物館・史料館への勤務も同様です。長期的には、職に関係なく、古文書を読む人が1人でも地域にいることはその地域の文化力を高めることだと信じています。是非解読力を高めましょう。		
評価方法	ゼミでの主体的な取り組みと、共同作業における担当部分の提出の有無、内容で評価します。		
参考文献			
備考			

講義科目名称：日本史演習1A (30610)

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	選択
担当教員			
吉田 歓			

授業のテーマ及び到達目標	日本古代史の研究はさまざまな切り口から行うことが可能である。受講生個人個人の関心に即して、各人が史料を調査し、考えをまとめ、発表することで、古代史研究に対する能力を高めることを目標とする。
授業計画	<p>第1回 古代史の研究論文の読み方と整理の仕方について解説</p> <p>第2回 論文報告 1</p> <p>第3回 論文報告 2</p> <p>第4回 論文報告 3</p> <p>第5回 論文報告 4</p> <p>第6回 論文報告 5</p> <p>第7回 論文報告 6</p> <p>第8回 論文報告 7</p> <p>第9回 論文報告 8</p> <p>第10回 論文報告 9</p> <p>第11回 論文報告 1 0</p> <p>第12回 論文報告 1 1</p> <p>第13回 論文報告 1 2</p> <p>第14回 論文報告 1 3</p> <p>第15回 論文報告 1 4</p>
授業概要	古代史論文の輪読します。論文の読み方などを訓練する。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	指定された論文などを予め読みまとめること。
テキスト	受講生が用意するレジュメ。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	受講生諸君が主体的に関わっていかなければ成り立たない演習である。真剣に取り組むことを通じて、歴史を調べることの楽しさを味わってもらいたい。 なお、「日本史演習 1 B」「日本史特殊研究 1 A・B」とあわせて受講すること。
評価方法	積極的な授業への参加度（50%）、報告（50%）
参考文献	
備考	

講義科目名称：日本史演習2A (30620)

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	選択
担当教員			
藪部 寿樹			

授業のテーマ及び到達目標	中世史の研究文献の講読及び学生各人の卒業研究の報告を通して、各自の中世史研究に対する能力を高めること。		
授業計画	第1回	学生の卒業研究に関する報告とそれに対する指導・討論	
	第2回	学生の卒業研究に関する報告とそれに対する指導・討論	
	第3回	学生の卒業研究に関する報告とそれに対する指導・討論	
	第4回	学生の卒業研究に関する報告とそれに対する指導・討論	
	第5回	卒論研究中間報告会 最初の中間報告会です。課題意識や参考文献、史料についての見通しを確認します。	
	第6回	学生の卒業研究に関する報告とそれに対する指導・討論	
	第7回	学生の卒業研究に関する報告とそれに対する指導・討論	
	第8回	学生の卒業研究に関する報告とそれに対する指導・討論	
	第9回	学生の卒業研究に関する報告とそれに対する指導・討論	
	第10回	卒論研究中間報告会 これまでの作業を総括して、今後の作業についての展望を得ます。	
	第11回	学生の卒業研究に関する報告とそれに対する指導・討論	
	第12回	学生の卒業研究に関する報告とそれに対する指導・討論	
	第13回	学生の卒業研究に関する報告とそれに対する指導・討論	
	第14回	学生の卒業研究に関する報告とそれに対する指導・討論	
	第15回	卒論研究中間報告会 前期最後の報告会です。夏休みにどのような作業をするのかを確定します。	
授業概要	学生各人の卒業研究に関する報告と討論。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	授業後、ゼミ生の卒業研究の内容をより深く理解するとともに、自己の卒業研究の進展について深く考察して下さい。		
テキスト	学生各自の発表報告レジュメ。		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	歴史を調査研究することにはかなりの困難がともないますが、それ故にこそ、事実関係を発見したり再評価できたときの喜びはひとしおです。先輩や友人達の調査研究のありかたに学びつつ、自己の卒業研究をすすめながら、調査活動の力を養っていきます。 ゼミ形式なので、受講生の積極的な発言を期待します。教員としても、受講生が発言しやすいように工夫したいと思います。 日本史特殊研究2Aと密接に関連させて授業をしますので、あわせて受講してください。		
評価方法	平常点。ゼミ討論への取り組みなどを評価します。		
参考文献	類似の研究課題を扱った先輩の卒業論文をまず読んでみて下さい。それから相談の上、参考文献を指定していきます。		
備考			

講義科目名称：日本史演習3A (30630)

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	選択
担当教員			
小林 文雄			

授業のテーマ及び到達目標	1. 近世史の研究文献の輪読をとおして、学説を理解する能力を高める 2. 調べたことをまとめ、報告することとおして、自分の考えを伝える能力を高める。 3. 卒業研究の執筆に必要な能力（資料調査探求能力、文章表現能力）を身につける
授業計画	<p>第1回 ガイダンス 授業計画のガイダンス。受講者の関心に合わせて、第1回目の授業で、使用するテキストを相談する。</p> <p>第2回 文献の探し方についての解説</p> <p>第3回 文献の読み方、研究の背景についての解説</p> <p>第4回 卒業研究の進め方についてのガイダンス</p> <p>第5回 研究文献の輪読1 受講者による報告と討論</p> <p>第6回 研究文献の輪読2 受講者各自の報告と討論</p> <p>第7回 研究文献の輪読4 受講者各自の報告と討論</p> <p>第8回 先行研究の整理の仕方についての解説</p> <p>第9回 卒業研究の構想発表1</p> <p>第10回 卒業研究の構想発表2</p> <p>第11回 研究文献の輪読5 受講者各自の報告と討論</p> <p>第12回 研究文献の輪読6 受講者各自の報告と討論</p> <p>第13回 研究文献の輪読7 受講者各自の報告と討論</p> <p>第14回 研究文献の輪読8 受講者各自の報告と討論</p> <p>第15回 まとめ</p>
授業概要	<p>学生の報告・討論を中心に授業をすすめる。毎回、1名ないし数名の報告者を立てて、論文の内容を要約し、疑問点などを発表してもらい、その後、受講生全員による質疑応答、討論を行います。</p> <p>また、この演習では、各自の卒業研究計画に合わせた準備報告も行います。</p>
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	<p>あらかじめ受講者にテキストのページを指定しておきますので、該当する箇所を辞書や関連図書で事前に調べておいてください。</p>
テキスト	<p>受講生の関心に依じて選定します。卒業研究と関連するような文献を用意する予定です。</p>
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	<p>学生が積極的に質問や発言できるよう心掛けたいと思います。なお、「日本史演習3B」、「日本史特殊研究3A」、「日本史特殊研究3B」と関連させた授業を行うので、あわせて受講してください。</p>
評価方法	<p>授業での報告60%、討論への参加度40%</p>
参考文献	
備考	

講義科目名称：日本史演習4A (30640)

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	選択
担当教員			
布施 賢治			

授業のテーマ及び到達目標	日本近代史に関する研究論文の講読と、受講生の卒業研究の報告を通じて、受講生各人の日本近代史に対する研究能力を高める。
授業計画	<p>第1回 高見順『敗戦日記』『木戸幸一日記』の特徴と解説</p> <p>第2回 卒業研究を作成する上での留意点などの解説</p> <p>第3回 受講生による報告と質疑応答</p> <p>第4回 受講生による報告と質疑応答</p> <p>第5回 受講生による報告と質疑応答</p> <p>第6回 受講生による報告と質疑応答</p> <p>第7回 受講生による報告と質疑応答</p> <p>第8回 受講生による報告と質疑応答</p> <p>第9回 受講生による報告と質疑応答</p> <p>第10回 受講生による報告と質疑応答</p> <p>第11回 受講生による報告と質疑応答</p> <p>第12回 受講生による報告と質疑応答</p> <p>第13回 受講生による報告と質疑応答</p> <p>第14回 受講生による報告と質疑応答</p> <p>第15回 まとめ</p>
授業概要	演習形式
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	文献研究やアカデミックプレゼンテーションの準備を自主的に進めておくこと。
テキスト	プリント等を配布します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	日本史演習4B、日本史特殊研究4A・4Bと関連して授業を行うので、あわせて受講してください。
評価方法	授業への参加度（50%）と担当する報告レジュメの内容（50%）。
参考文献	
備考	

講義科目名称：日本史演習5A (30650)

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	選択
担当教員			
山田 彩起子			

授業のテーマ及び到達目標	中世（他に平安時代も）女性史をテーマに卒業研究作成を目指す受講者に指導を行います。研究内容をレジュメにまとめあげて報告し、討論・指導を重ねる中で内容の精度を高め、卒業研究を作成しましょう。		
授業計画	第1回	研究報告レジュメ作成方法についての指導・受講者による報告順番の決定	
	第2回	受講者各自の研究報告及び討論・指導	
	第3回	受講者各自の研究報告及び討論・指導	
	第4回	受講者各自の研究報告及び討論・指導	
	第5回	受講者各自の研究報告及び討論・指導	
	第6回	受講者各自の研究報告及び討論・指導	
	第7回	受講者各自の研究報告及び討論・指導	
	第8回	受講者各自の研究報告及び討論・指導	
	第9回	受講者各自の研究報告及び討論・指導	
	第10回	受講者各自の研究報告及び討論・指導	
	第11回	受講者各自の研究報告及び討論・指導	
	第12回	受講者各自の研究報告及び討論・指導	
	第13回	受講者各自の研究報告及び討論・指導	
	第14回	受講者各自の研究報告及び討論・指導	
	第15回	受講者各自の研究報告及び討論・指導	
授業概要	受講者各自の卒業研究準備報告とその討論・指導。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	討論や指導の中で指摘された問題点の解決に、早目に取り組みましょう。		
テキスト	受講者各自の報告レジュメ		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	積極的に質問や指摘をして討論を盛り上げて下さい。なお、日本史演習5B、日本史特殊研究5A・5Bと関連する授業を行うので、あわせて受講してください。		
評価方法	授業での報告70%、討論への参加度30%		
参考文献			
備考			

講義科目名称：日本史演習6A (30660)

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	選択
担当教員			
原 淳一郎			

授業のテーマ及び到達目標	卒業論文作成のための指導を行う。		
授業計画	第1回	卒業研究の方法	
	第2回	受講生の卒業研究報告	
	第3回	受講生の卒業研究報告	
	第4回	受講生の卒業研究報告	
	第5回	受講生の卒業研究報告	
	第6回	受講生の卒業研究報告	
	第7回	受講生の卒業研究報告	
	第8回	受講生の卒業研究報告	
	第9回	受講生の卒業研究報告	
	第10回	受講生の卒業研究報告	
	第11回	受講生の卒業研究報告	
	第12回	受講生の卒業研究報告	
	第13回	受講生の卒業研究報告	
	第14回	受講生の卒業研究報告	
	第15回	受講生の卒業研究報告	
授業概要	受講生それぞれの卒業論文執筆にむけた準備報告をもとに討論を行う。 1つの報告に対して、全員が必ず発言する 適宜、受講生の状況を見て、論文執筆の基礎的事項の教示、論文の輪読をおこなうことがある。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	自分の卒業論文の報告の際には、しっかりと時間を掛けて準備してください。		
テキスト	特になし。必要があれば配布します。		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	①討論では、あまり周りの空気を読み過ぎず、積極的に発言してください。その方が楽しいはずです。 ②計画的に卒業論文執筆を進めてください。悩んだら些細な質問でも構いませんので、是非相談に来てください。 ③受講生の特性を見て、個別に指示を与える場合があります。その場合は、できるだけやり遂げるようにしてください。		
評価方法	2回程度の卒業論文報告の内容と、ゼミ内での質疑応答の様子で決めます。		
参考文献			
備考			

講義科目名称：日本史演習1B（30710）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	2	選択
担当教員			
吉田 歆			

授業のテーマ及び到達目標	日本古代史の研究はさまざまな切り口から行うことが可能である。受講生個人個人の関心に即して、各人が史料を調査し、考えをまとめ、発表することで、古代史研究に対する能力を高めることを目標とする。
授業計画	第1回 論文報告 1 第2回 論文報告 2 第3回 論文報告 3 第4回 論文報告 4 第5回 論文報告 5 第6回 論文報告 6 第7回 論文報告 7 第8回 論文報告 8 第9回 論文報告 9 第10回 論文報告 1 0 第11回 論文報告 1 1 第12回 論文報告 1 2 第13回 論文報告 1 3 第14回 論文報告 1 4 第15回 論文報告 1 5
授業概要	古代史論文の輪読します。論文の読み方などを訓練する。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	指定された論文などを予め読みまとめること。
テキスト	受講生が用意するレジュメ。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	受講生諸君が主体的に関わっていかなければ成り立たない演習である。真剣に取り組むことを通じて、歴史を調べることの楽しさを味わってもらいたい。 なお、「日本史演習 1 A」「日本史特殊研究 1 A・B」とあわせて受講すること。
評価方法	積極的な授業への参加度（50%）、報告（50%）
参考文献	
備考	

講義科目名称：日本史演習2B (30720)

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	2	選択
担当教員			
藺部 寿樹			

授業のテーマ及び到達目標	中世史の研究文献の講読及び学生各人の卒業研究の報告を通して、各自の中世史研究に対する能力を高めること。		
授業計画	第1回	学生の卒業研究に関する報告とそれに対する指導・討論 学生各人の卒業研究に関する数回の発表とそれに対する討論により、授業をすすめます。	
	第2回	学生の卒業研究に関する報告とそれに対する指導・討論	
	第3回	学生の卒業研究に関する報告とそれに対する指導・討論	
	第4回	学生の卒業研究に関する報告とそれに対する指導・討論	
	第5回	卒業研究中間報告会	
	第6回	学生の卒業研究に関する報告とそれに対する指導・討論	
	第7回	学生の卒業研究に関する報告とそれに対する指導・討論	
	第8回	学生の卒業研究に関する報告とそれに対する指導・討論	
	第9回	学生の卒業研究に関する報告とそれに対する指導・討論	
	第10回	卒業研究中間報告会 卒業研究最後の中間報告会です。ここで仕上がり状況を最終確認します。	
	第11回	学生の卒業研究に関する報告とそれに対する指導・討論	
	第12回	学生の卒業研究に関する報告とそれに対する指導・討論	
	第13回	学生の卒業研究に関する報告とそれに対する指導・討論	
	第14回	卒業研究最終報告会 1 卒業研究の全体像を各自が報告し討論します。	
	第15回	卒業研究最終報告会 2 卒業研究の全体像を各自が報告し討論します。	
授業概要	学生各人の卒業研究に関する報告と討論。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	授業後、ゼミ生の卒業研究の内容をより深く理解するとともに、自己の卒業研究の進展について深く考察して下さい。		
テキスト	学生各自の発表報告レジュメ。		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	歴史を調査研究することにはかなりの困難がともないますが、それ故にこそ、事実関係を発見したり再評価できたときの喜びはひとしおです。先輩や友人達の調査研究のありかたに学びつつ、自己の卒業研究をすすめながら、調査活動の力を養っていきます。 ゼミ形式なので、受講生の積極的な発言を期待します。教員としても、受講生が発言しやすいように工夫したいと思います。 日本史特殊研究2Bと密接に関連させて授業をしますので、あわせて受講してください。		
評価方法	平常点。ゼミ討論への取り組みなどを評価します。		
参考文献	類似の研究課題を扱った先輩の卒業論文をまず読んでみて下さい。それから相談の上、参考文献を指定していきます。		
備考			

講義科目名称：日本史演習3B (30730)

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	2	選択
担当教員			
小林 文雄			

授業のテーマ及び到達目標	1. 卒業研究の調査・報告をととして、自身の考えを的確に伝える能力を高める。 2. 卒業研究論集を作成し、校正・編集の方法を身につける。
授業計画	<p>第1回 卒業研究の進め方についてのガイダンス</p> <p>第2回 受講者による卒業研究中間報告</p> <p>第3回 受講者による卒業研究中間報告</p> <p>第4回 受講者による卒業研究中間報告</p> <p>第5回 受講者による研究文献報告と討論</p> <p>第6回 受講者による研究文献報告と討論</p> <p>第7回 受講者による研究文献報告と討論</p> <p>第8回 受講者による研究文献報告と討論</p> <p>第9回 受講者による卒業研究提出直前報告と討論</p> <p>第10回 受講者による卒業研究提出直前報告と討論</p> <p>第11回 卒業研究論集の作成</p> <p>第12回 卒業研究論集の作成</p> <p>第13回 卒業研究論集の作成</p> <p>第14回 卒業研究論集の作成</p> <p>第15回 まとめ</p>
授業概要	学生の報告・討論を中心に授業をすすめる。毎回、1名ないし数名の報告者を立てて、論文の内容を要約し、疑問点などを発表してもらう。その後、受講生全員による質疑応答、討論に入る。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	あらかじめ受講者にテキストのページを指定しておきますので、該当する箇所を辞書や関連図書で事前に調べておいてください。
テキスト	受講者の関心に応じて選定する。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	「日本史演習3A」、「日本史特殊研究3A」、「日本史特殊研究3B」と関連させた授業を行うので、あわせて受講してください。また、卒業研究論集の編集作業を通じて、共同で新しい作品を作り出す楽しさを味わってください。
評価方法	授業での報告60%、討論への参加度40%
参考文献	
備考	

講義科目名称：日本史演習4B（30740）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	2	選択
担当教員			
布施 賢治			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	日本近代史に関する研究論文の講読と、受講生の卒業研究の報告を通じて、受講生各人の日本近代史に対する研究能力を高める。
授業計画	<p>第1回 高見順『敗戦日記』『木戸幸一日記』の特徴と解説</p> <p>第2回 卒業研究を作成する上での留意点などの解説</p> <p>第3回 受講生による卒業研究中間報告</p> <p>第4回 受講生による報告と質疑応答</p> <p>第5回 受講生による報告と質疑応答</p> <p>第6回 受講生による報告と質疑応答</p> <p>第7回 受講生による報告と質疑応答</p> <p>第8回 受講生による卒業研究中間報告</p> <p>第9回 受講生による報告と質疑応答</p> <p>第10回 受講生による報告と質疑応答</p> <p>第11回 受講生による報告と質疑応答</p> <p>第12回 受講生による報告と質疑応答</p> <p>第13回 受講生による卒業研究最終報告</p> <p>第14回 受講生による卒業研究最終報告</p> <p>第15回 受講生による卒業研究最終報告</p>
授業概要	演習形式
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	文献研究やアカデミックプレゼンテーションの準備を自主的に進めておくこと。
テキスト	プリント等を配布します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	日本史演習4A、日本史特殊研究4A・4Bと関連して授業を行うので、あわせて受講してください。
評価方法	授業への参加度（50%）と担当する報告レジュメの内容（50%）。
参考文献	
備考	

講義科目名称：日本史演習5B（30750）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	2	選択
担当教員			
山田 彩起子			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	中世（他に平安時代も）女性史をテーマに卒業研究作成を目指す学生に指導を行います。研究内容をレジュメにまとめあげて報告し、討論・指導を重ねる中で内容の精度を高め、卒業研究を作成しましょう。
授業計画	<p>第1回 受講者各自の研究報告及び討論・指導</p> <p>第2回 受講者各自の研究報告及び討論・指導</p> <p>第3回 受講者各自の研究報告及び討論・指導</p> <p>第4回 受講者各自の研究報告及び討論・指導</p> <p>第5回 受講者各自の研究報告及び討論・指導</p> <p>第6回 受講者各自の研究報告及び討論・指導</p> <p>第7回 受講者各自の研究報告及び討論・指導</p> <p>第8回 受講者各自の研究報告及び討論・指導</p> <p>第9回 受講者各自の研究報告及び討論・指導</p> <p>第10回 受講者各自の研究報告及び討論・指導</p> <p>第11回 受講者各自の研究報告及び討論・指導</p> <p>第12回 受講者各自の研究報告及び討論・指導</p> <p>第13回 受講者による卒業研究最終報告1</p> <p>第14回 受講者による卒業研究最終報告2</p> <p>第15回 受講者による卒業研究最終報告3</p>
授業概要	受講者各自の研究報告及び討論・指導。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	討論や指導の中で指摘された問題点の解決に、早目に取り組みましょう。
テキスト	受講者各自の報告レジュメ
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	積極的に質問や指摘をして討論を盛り上げて下さい。なお、日本史演習5A、日本史特殊研究5A・5Bと関連する授業を行うので、あわせて受講してください
評価方法	授業での報告70%、討論への参加度30%
参考文献	
備考	

講義科目名称：日本史演習6B（30760）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	2	選択
担当教員			
原 淳一郎			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	卒業論文作成のための指導を行う。		
授業計画	第1回	夏季休暇中の研究の進展の確認	
	第2回	受講生の卒業研究報告	
	第3回	受講生の卒業研究報告	
	第4回	受講生の卒業研究報告	
	第5回	受講生の卒業研究報告	
	第6回	受講生の卒業研究報告	
	第7回	受講生の卒業研究報告	
	第8回	受講生の卒業研究報告	
	第9回	受講生の卒業研究報告	
	第10回	受講生の卒業研究報告	
	第11回	受講生の卒業研究報告	
	第12回	受講生の卒業研究報告	
	第13回	受講生の卒業研究報告	
	第14回	受講生の卒業研究報告	
	第15回	受講生の卒業研究の個別相談	
授業概要	受講生それぞれの卒業論文執筆にむけた準備報告をもとに討論を行う。 1つの報告に対して、全員が必ず発言する 適宜、受講生の状況を見て、論文執筆の基礎的事項の教示、論文の輪読をおこなうことがある。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	しっかりと時間を掛けて、レジュメの準備をしてください。		
テキスト	特になし。必要があれば配布します。		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	①討論では、あまり周りの空気を読み過ぎず、積極的に発言してください。その方が楽しいはずです。 ②計画的に卒業論文執筆を進めてください。悩んだら些細な質問でも構いませんので、是非相談に来てください。 ③受講生の特性を見て、個別に指示を与える場合があります。その場合は、できるだけやり遂げるようにしてください。		
評価方法	2回程度の卒業論文報告の内容と、ゼミ内での質疑応答の様子で決めます。		
参考文献			
備考			

講義科目名称：考古学概説（30830）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択
担当教員			
阿部 明彦			
開放（教養）			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	考古学は、過去の人々が遺したものの（遺構・遺物）から当時の生活や行動様式までも考える学問である。本講義では、日本考古学の最新の研究と成果を、発掘された遺跡や遺物を通して解説する。なお、題材はできるだけより身近な県内の遺跡に求めてみたい。昔の暮らしの跡が何を物語るのかを考古学を通して考え学び、現在の自分の生き方にも吸収すべきことがないかをあらためて見つめ直して欲しい。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション「考古学のおもしろさ」</p> <p>第2回 石器と土器づくりの始まり（旧石器時代～縄文時代早期）</p> <p>第3回 考古学の方法と目的（何をどのようにわかろうとするのか？）</p> <p>第4回 縄文時代の人々とくらし</p> <p>第5回 縄文時代の信仰（土偶と石棒）</p> <p>第6回 農耕社会の始まりと弥生文化</p> <p>第7回 古墳時代と国家の誕生</p> <p>第8回 飛鳥・奈良時代と出羽国</p> <p>第9回 米沢市埋蔵文化財資料室の見学</p> <p>第10回 平安時代と出羽国</p> <p>第11回 武士の社会と考古学</p> <p>第12回 城館跡と考古学（戦国時代～江戸時代）</p> <p>第13回 発掘調査とは何か</p> <p>第14回 考古学と文化財の保護</p> <p>第15回 今後の皆さんに期待すること</p>
授業概要	旧石器時代から近世までの日本の歩みを、毎回パワーポイントを用いて、映像資料を取り入れながら分かりやすく講義する。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	定期的に小課題（レポート）を課すので、期日まで取り組んで提出すること。
テキスト	講義には定まったテキストを用いず、要点や主な映像資料を載せたレジュメを毎回配布する。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	考古学は今や歴史を志すものにとっては必須の学問である。発掘によって出土した考古資料から新たな視点で歴史を考察する面白さを感じて欲しい。講義資料は毎回10頁程度を目安にレジュメを準備し、画像資料を中心としたパワーポイントを用いて、分かり易さの一助としたい。
評価方法	授業への出席度、平常の講義及び野外学習時の学習態度、レポートや期末試験の考査。
参考文献	
備考	

講義科目名称：民俗学概説(日) (30840)

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択
担当教員			
岩鼻 通明			
開放(教養)			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	この講義では、日本の山岳信仰をテーマとして取り上げる。まず、民俗学とは、どのような学問であるかを論じた上で、日本の山岳信仰に関する諸問題について、具体的事例を紹介しながら講義を進める。講義に際してはビデオ教材を活用する。 民俗学に関する基礎的知識を習得するとともに、日本の山岳信仰について、深い認識を得ることを目標とする。		
授業計画	第1回	民俗学とは	
	第2回	民俗学の歩み	
	第3回	山岳信仰の歴史	
	第4回	立山の山岳信仰	
	第5回	白山の山岳信仰	
	第6回	英彦山の山岳信仰	
	第7回	戸隠山の山岳信仰	
	第8回	山寺立石寺の山岳信仰	
	第9回	出羽三山の山岳信仰	
	第10回	羽黒山の山岳信仰	
	第11回	月山の山岳信仰	
	第12回	湯殿山の山岳信仰	
	第13回	即身仏信仰	
	第14回	山岳信仰と食文化	
	第15回	まとめ	
授業概要	日本民俗学で扱う内容のうち、本講義では宗教および信仰に関わる民俗、その中でも日本に特有といえる山岳信仰について講義を展開する。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	休日に民俗学関連の展示がある博物館・資料館などを積極的に見学すること。		
テキスト	特に使用しないが、附属図書館に所蔵されている民俗学関係の図書を参照すること。		
受講生へのメッセージ(授業評価を踏まえた方針など)	自己の故郷の年中行事や祭礼などに関心を持ってほしい。基本的な文献としては、文庫本で出ている、柳田国男『遠野物語』や宮本常一『忘れられた日本人』などがあげられる。 板書は、なるべく整然と見やすい大きな文字で書くことにしたい。		
評価方法	講義内容に関連した課題についての文献およびネット検索をふまえたレポート(出典は必ず明示すること)を学期末に提出することで、成績を評価する。		
参考文献	岩鼻通明『出羽三山』、岩鼻通明『絵図と映像にみる山岳信仰』		
備考			

講義科目名称：歴史考古学（30850）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択
担当教員			
吉田 歆			
開放（教養）	高大連携開放科目※	※高校生男女が受講する場合有	授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	「歴史考古学」とは、文献史料が残っている時代を対象に、遺跡・遺物などの発掘資料から考察していく考古学の一分野である。本講義では、文献史料と考古学資料を複眼的に利用しながら国内外の遺跡・遺物について取り上げ、歴史考古学的に思考力を身につけることを目標とする。		
授業計画	第1回	歴史考古学とは	
	第2回	平泉前史	
	第3回	平泉と奥州藤原氏	
	第4回	陣が峯城	
	第5回	鎌倉	
	第6回	草戸千軒	
	第7回	室町幕府の拠点	
	第8回	一乗谷	
	第9回	安土城	
	第10回	大阪城	
	第11回	根城	
	第12回	山形城	
	第13回	伊達氏の遺跡	
	第14回	蘆名氏の城	
	第15回	まとめ	
授業概要	毎回、特徴的な遺跡を取り上げて解り易く解説します。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	わからなかった語句の意味などを積極的に調べること。		
テキスト	必要に応じてプリントを配付する。		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	文献史料と考古学資料を通して歴史を組み立てていくおもしろさに気付いてください。		
評価方法	積極的な授業への参加度（50％）、レポート（50％）		
参考文献			
備考			

講義科目名称：生活文化史（30871）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択
担当教員			
小林 文雄			
開放（教養）	高大連携開放科目※	※高校生男女が受講する場合有	授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	①当たり前に見える行為・習慣やものの感じ方などにも、時代や地域による違いがあること、歴史的な変化があることに気づいてもらう。 ②生活文化の歴史をとおして、異文化への理解を深める。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 異なる文化と出会う 生活文化史の見方（1）</p> <p>第3回 歴史のなかの身体、心性と感覚 生活文化史の見方（2）</p> <p>第4回 伝統とは何か 生活文化史の見方（3）</p> <p>第5回 正月の過ごし方 両分性、伝統の発明</p> <p>第6回 食事と食器 食器の属人性、食事の空間、「イエ」の成立、磁器の普及</p> <p>第7回 歩き方の変化－協調する身体 整列行進、身分制の解体</p> <p>第8回 幕末の音－ドラムとラッパー 音の環境、身体の規律化、儀礼と無音</p> <p>第9回 うたは境界をつくるか？ うたの流通、国民の成立、コミュニティ・ソング</p> <p>第10回 暦と季節感覚 太陰暦と太陰太陽暦、時間の統御と権力</p> <p>第11回 生活のなかの時間規律－近代的時間秩序の形成－ 時間厳守、定時法と不定時法、時間の均質化、室内時計と公共時計</p> <p>第12回 江戸時代のライフサイクル－子どもを取りまく環境－ ライフイベント、近代家族</p> <p>第13回 音読と黙読 声の文化と文字の文化 公共空間の変容</p> <p>第14回 住まいの空間－ウチとソトの境界－</p> <p>第15回 まとめ</p>
授業概要	この講義には、2つの柱があります。まずひとつめは、暮らしのなかの「モノ」やしぐさ・習慣に注目することによって、近世から近代にかけての文化変容の意味を考えます。ふたつめは、ライフサイクルのなかで生活文化のありようを考えます。住まいの問題、子どもの生育環境の問題、労働と余暇の関係などを考える手掛かりとなる題材をとりあげます。講義資料はあらかじめTeamsで配布します。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	授業で取り上げた文献等を図書館で借りたり、購入したり（任意です）して、できるだけ読むようにこころがけてください。 また、Teamsに上げた講義資料は事前に目を通しておいてください。
テキスト	購入しなければならない指定図書はありません。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	講義形式です。授業の理解度をはかるために、質問用シートと小課題をTeamsで何回か提出してもらいます。オンライン授業期間中は、このほかに授業内容に関連するアンケートもとりまします。
評価方法	期末レポートによる評価60%、小課題・アンケート・質問用シートの提出状況と記述内容による評価40%
参考文献	参考図書として、石川栄吉『欧米人の見た開国期日本 異文化としての庶民生活』角川ソフィア文庫、960円＋消費税を挙げておきます。興味があればお読みください。
備考	授業前にあらかじめformsで作成した課題やアンケートを提示しますので、授業時間内に提出してください。

講義科目名称：国際交流史（30880）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択
担当教員			
布施 賢治			
開放（教養）	高大連携開放科目※	※高校生男女が受講する場合有	授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	日本の開国とその影響について講述し、19世紀日本をとりまいていた国際的環境を理解する。		
授業計画	第1回	海外認識の高まり	
	第2回	知識人の対外認識—鎖国論、攘夷論、開国論—	
	第3回	ロシアとの北方紛争	
	第4回	モリソン号事件・アヘン戦争・ペリー来航情報	
	第5回	アメリカの日本開国動機	
	第6回	「対外関係史」「鎖国」という言葉をめぐって	
	第7回	「外圧」という言葉をめぐって	
	第8回	映像史料をみる ～20世紀 世界は日本をどう見ていたのか～	
	第9回	ペリー派遣の背景	
	第10回	日米和親条約の締結	
	第11回	イギリスとの交渉	
	第12回	ロシア・オランダとの交渉	
	第13回	幕府の積極的開国論と日米修好通商条約の締結	
	第14回	日清戦争の影響	
	第15回	日本の植民地帝国化と日本人の海外進出	
授業概要	講義形式		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	日頃より読書や他の講義の受講を通じて、この授業のテーマについて主体的に考えること。		
テキスト	必要に応じてプリントを配布します。		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	わかりやすい授業を心がけていきます。疑問点や質問は随時受け付けます。		
評価方法	期末レポート		
参考文献			
備考			

講義科目名称：地理学1（30910）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択・教職必修
担当教員			
岩鼻 通明			
開放（教養）			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	この講義では、地理学について概論的に取り上げる。地理学は総合科学であり、人文地理学および自然地理学から成り立つが、主に人文地理学に関する諸問題を扱いながら、その背景にある自然地理学上の問題についても触れたい。講義に際してはビデオ教材を活用する。地理学の基礎的知識は社会人となつてからも、さまざまなシーンにおいて応用可能な学問分野である。
--------------	--

授業計画	<p>第1回 地理学とは、どのような学問分野か。</p> <p>第2回 第1次産業の地理学 農林水産業と庄内地方</p> <p>第3回 第2次産業の地理学1 工業とハイテク産業</p> <p>第4回 第2次産業の地理学2 鉱山と鉄道</p> <p>第5回 第3次産業の地理学1 高速交通網</p> <p>第6回 第3次産業の地理学2 空の交通</p> <p>第7回 第3次産業の地理学3 観光リゾート産業</p> <p>第8回 水と地理学1 長良川河口堰</p> <p>第9回 水と地理学2 中海干拓</p> <p>第10回 災害と地理学 阪神大震災</p> <p>第11回 地域活性化と地理学1 町並み保存</p> <p>第12回 地域活性化と地理学2 世界文化遺産</p> <p>第13回 地域活性化と地理学3 映画祭</p> <p>第14回 地域活性化と地理学4 フィルムコミッション</p> <p>第15回 地域活性化と地理学5 映画館</p>
------	--

授業概要	地理学で扱う内容のうち、本講義では、まず産業と地理学について論じ、次に水と地理学の関りを扱う。最後に地域活性化における地理学の役割について論じる。
------	---

実務経験及び授業の内容	
-------------	--

時間外学習	休日に地域と地理学関連の展示がある博物館・資料館などを積極的に見学すること。
-------	--

テキスト	特に使用しないが、附属図書館に所蔵されている地理学関係の図書を参照すること。
------	--

受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	身の回りの風景（地理学では景観という用語を使う）の変化に気づいてほしい。農村や地方都市、そして大都市の景観の違いが何に起因するのかを考えてほしい。
---------------------------	---

評価方法	講義内容に関連した課題についての文献およびネット検索をふまえたレポート（出典は必ず明示すること）を学期末に提出することで、成績を評価する。
------	---

参考文献	『地理学がわかる』朝日新聞社、『現代人文地理学』佐藤廉也、など。
------	----------------------------------

備考	
----	--

--	--

講義科目名称：地理学2（30920）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
集中	1・2	2	選択・教職必修
担当教員			
佐野 嘉彦			
開放（教養）			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	自然地理分野の一分野である気候学と歴史との関係から、現在、大きく取り上げられている温暖化などの環境問題までを学習します。さらに、空間認識の学習として地図の読み方を教えます。これらを通して、自然地理学において大切なスケールというものを学びます。
授業計画	<p>1 地理学とは－系統地理学と地誌－ 「ニルスのふしぎな旅」から学ぶ地理学</p> <p>2 自然地理学の世界へ－時空間の旅へ－ 時間と空間のスケール 人間が認識できる時間、空間スケール</p> <p>3 自分が存在する場所を考える－地形学入門－</p> <p>4 地図を楽しもう（地図の読図）－旅行に地図は必要か？－ 空中写真からみた町 ー鳥の目でみるー</p> <p>5 空間の認識（地理情報システムについて）－最近の地理学の動向－ コンピュータを使って地図を見る</p> <p>6 歴史学と気象学との出会い－日記からわかる昔の天候－ 昔の人も天気を気にしていた？</p> <p>7 大気環境科学入門－公害から地球の危機まで－ 危機感をあおっているのは誰だ？</p> <p>8 温暖化について－本当に温暖化しているのか？－</p> <p>9 異常気象について－エルニーニョって異常なのか？－ 日本と熱帯との関係を調べる</p> <p>10 環境問題の解決のために－人間の英知は時空間を越えて－</p> <p>その他、半日程度の市内巡検等を計画しております。徒歩が基本です。</p>
授業概要	自然地理学の基礎的な知識を習得し、その知識の応用として、地図の判読から地域の特性を学ぶ。具体的には、地形学と気候学の2分野から構成される自然地理学の知識を、グローバルスケール（世界）、ローカルスケール（日本各地）から理解し、演習的要素として地形図の判読を通し、知識を定着させる。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	授業内容の確認の為、レポートを時間外学習として課す。
テキスト	プリントで配布。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	次のものを持参してください。・定規10cm程度のものでも大丈夫です・色鉛筆またはマーカー（4色程度で十分です）
評価方法	授業への参加度と試験（時間の都合では試験の代わりにレポートになることもあります）
参考文献	
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択・教職必修
担当教員			
菌部 寿樹			
開放（教養）			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	1. 日本における地誌（学）のありかたやその意義を修得すること。 2. 日本の地理的なありかたについて理解を深めること。
授業計画	<p>第1回 地誌学とは何か。日本における各種の地誌書・紀行文などの紹介。『史料京都の歴史』社会・文化の輪読とそれに対する指導・討論 地誌学とは何かを解説します。 また日本における各種の地誌書・紀行文などを紹介します。 『史料京都の歴史』社会・文化を輪読形式で読みます。</p> <p>第2回 『史料京都の歴史』社会・文化の輪読とそれに対する指導・討論 『史料京都の歴史』社会・文化を輪読形式で読みます。</p> <p>第3回 『史料京都の歴史』社会・文化の輪読とそれに対する指導・討論 『史料京都の歴史』社会・文化を輪読形式で読みます。</p> <p>第4回 『史料京都の歴史』社会・文化の輪読とそれに対する指導・討論 『史料京都の歴史』社会・文化を輪読形式で読みます。</p> <p>第5回 『史料京都の歴史』社会・文化の輪読とそれに対する指導・討論 『史料京都の歴史』社会・文化を輪読形式で読みます。</p> <p>第6回 『史料京都の歴史』社会・文化の輪読とそれに対する指導・討論 『史料京都の歴史』社会・文化を輪読形式で読みます。</p> <p>第7回 『史料京都の歴史』社会・文化の輪読とそれに対する指導・討論 『史料京都の歴史』社会・文化を輪読形式で読みます。</p> <p>第8回 『史料京都の歴史』社会・文化の輪読とそれに対する指導・討論 『史料京都の歴史』社会・文化を輪読形式で読みます。</p> <p>第9回 『史料京都の歴史』社会・文化の輪読とそれに対する指導・討論 『史料京都の歴史』社会・文化を輪読形式で読みます。</p> <p>第10回 『史料京都の歴史』社会・文化の輪読とそれに対する指導・討論 『史料京都の歴史』社会・文化を輪読形式で読みます。</p> <p>第11回 『史料京都の歴史』社会・文化の輪読とそれに対する指導・討論 『史料京都の歴史』社会・文化を輪読形式で読みます。</p> <p>第12回 『史料京都の歴史』社会・文化の輪読とそれに対する指導・討論 『史料京都の歴史』社会・文化を輪読形式で読みます。</p> <p>第13回 『史料京都の歴史』社会・文化の輪読とそれに対する指導・討論 『史料京都の歴史』社会・文化を輪読形式で読みます。</p> <p>第14回 『史料京都の歴史』社会・文化の輪読とそれに対する指導・討論 『史料京都の歴史』社会・文化を輪読形式で読みます。</p> <p>第15回 『史料京都の歴史』社会・文化の輪読とそれに対する指導・討論 『史料京都の歴史』社会・文化を輪読形式で読みます。</p>
授業概要	<p>地誌学とは、特定の地域空間の地理的個性を体系的に説明・記述することを目的とする学問です。また特定地域の地理を総合的に記述したものが、地誌です。</p> <p>本講義では、具体的に地誌を輪読しながら、地誌について学びます。</p> <p>今年度も京都に関する史料を読みながら、前近代日本の首都であった京都の地域的な特質について考えていきます。</p>
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	講義の前後、『史料 京都の歴史』第5巻の当該箇所について読んでおいて下さい。
テキスト	『史料 京都の歴史』第5巻の当該箇所のコピーを配布します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	地誌（学）に対して、ともすれば無味乾燥な印象をもっているかもしれませんが、しかし、地誌（学）を通して具体的な地域のありかたを考察するのは、たいへん楽しい作業です。輪読形式で授業をすすめますので、積極的に関与（質問・発言など）することを期待しています。
評価方法	<p>期末レポート（80%）、平常点（20%）</p> <p>平常点とは、輪読の責を果たしたかどうか（輪読の順番の折に出席して指定された箇所の読解をおこなったかどうか）という点に対する評価です。</p>
参考文献	『史料 京都の歴史』第5巻 社会・文化、平凡社、1984年

講義科目名称：法律学（30940）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択・教職選択必修
担当教員			
高木 紘一			
開放（教養）			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	現代社会において法の果たしている重要な機能や役割を、できるだけ具体的な事例を通じて理解することを目標とします。そのために、「法とはなにか」という法律学の最も基本的な問題及び法と裁判に関する基本原則を踏まえたうえで、国家と個人が最も直接的にかかわる刑事裁判の仕組み・内容、課題を通じて、法の意義を考えます。
授業計画	<p>第1回 法とは何か(1)－類概念と種差 －法規範と他の社会規範(風俗・慣習、宗教、道徳)との差異</p> <p>第2回 法とは何か(2) －法の定義(強制力、適用範囲、規範の質)</p> <p>第3回 法源とは何か －法の存在形態(法の存在する姿)を指し、裁判規範となるもの</p> <p>第4回 法の種類 －公法、私法、社会法(近代市民社会の成立とその変化を背景として新しく生まれた法領域)</p> <p>第5回 法と裁判(1) －紛争処理と裁判、裁判の種類・裁判所の組織、裁判の手続(3審制)</p> <p>第6回 法と裁判(2) －裁判の基本原則(裁判の公開、当事者主義)</p> <p>第7回 刑事裁判と法(1) －捜査から起訴へ(令状主義、取り調べ→場所と期間制限→代用監獄、可視化の課題)</p> <p>第8回 刑事裁判と法(2) －起訴をめぐる重要原則(起訴便宜主義→検察審査会と強制起訴制度の新設)</p> <p>第9回 刑事裁判と法(2) －公判をめぐる重要原則(自由心証主義、証拠法則→自白、伝聞証拠等の証拠能力)</p> <p>第10回 犯罪と刑罰の法(1) －人権保障と罪刑法定主義(近代刑法の基本原則→憲法39条)</p> <p>第11回 犯罪と刑罰の法(2) －犯罪とは何か(犯罪成立の三要件→構成要件、違法性、有责性)</p> <p>第12回 犯罪と刑罰の法(3) －刑罰の思想、刑罰の種類、死刑存廃論(歴史、現状、世界の流れ)</p> <p>第13回 裁判員裁判 －制度の趣旨、仕組み・内容、問題点及び課題</p> <p>第14回 ビデオ観賞 －陪審員裁判「12人の恐れる男」(米)又は「日本国憲法の誕生」</p> <p>第15回 授業のまとめ －法学学習の意義と法治主義</p>
授業概要	講義形式
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	政治、経済、社会の動きに関心を持つことがスタートです。関連のある文庫本などを読みましょう。
テキスト	使用しない。(レジメ・資料を配布する。)
受講生へのメッセージ(授業評価を踏まえた方針など)	法律は一見分かりづらく難しいもののように思われがちですが、具体的な問題から法を眺めると、私たちにとって、こんなに身近で面白いものかということが必ず分かってきます。日頃から、新聞、テレビ等でニュースに関心を持ち、問題意識を育てることが大切です。この授業を通じて、人権感覚を磨きましょう。
評価方法	筆記試験(70%)、授業への参加度(出席カードの記述内容で判断)(30%)
参考文献	授業の際にその都度指示する。
備考	

講義科目名称：政治学（30950）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択・教職選択必修
担当教員			
亀ヶ谷 雅彦			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	政治学や政治心理学の知見を用いて、政治現象についての理解を深めることができる。		
授業計画	第1回	はじめに	
	第2回	民主主義（これまでの変遷）	
	第3回	民主主義（今日の課題）	
	第4回	政策決定ゲームを作ろう	
	第5回	イデオロギー（これまでの変遷）	
	第6回	イデオロギー（新しい価値観）	
	第7回	映像でみるイデオロギー（前編）	
	第8回	映像でみるイデオロギー（後編）	
	第9回	政党と政党支持	
	第10回	映像でみる選挙	
	第11回	政治的パーソナリティ	
	第12回	政治的社会化	
	第13回	テロリズム	
	第14回	映像でみるテロリズム（前編）	
	第15回	映像でみるテロリズム（前編）	
授業概要	政治過程や政治現象の心理的側面に関するトピックを取り上げて講義する。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	本や新聞、ニュース、映画などを通して、授業内容について主体的に見聞を広げておくこと。		
テキスト	レジュメをTeamsで配布する。ダウンロード方法は授業開始時に教示する。		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	この授業では、政治学を学んだことのない学生向けに、政治学、政治過程論、政治心理学などに関するトピックを取り上げます。ドキュメンタリー映画などの映像を見る機会を多めに取っており、自治体の政策を調べる課題などもあるので、履修者の皆さんは主体的に取り組んでみてください。なお「社会心理学」「集合行動論」「国際関係論」といった科目も履修すると、より理解が深まると思います。		
評価方法	期末レポート・その他課題（70%）、授業への参加度（30%）		
参考文献			
備考			

講義科目名称：社会学(日) (30960)

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択・教職選択必修
担当教員			
中川 恵			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	社会学の基礎的な用語と考え方を理解し、自分の考えを叙述・説明する。		
授業計画	第1回	目標と方針の共有／Teamsの基本動作確認／人と「社会」とのかかわり方	
	第2回	出生：妊娠や出産と「選択」 ほか テキスト編	
	第3回	出生：妊娠や出産と「選択」 ほか レポート編	
	第4回	学ぶ／教える：なぜ教育が義務化されるのか ほか テキスト編	
	第5回	学ぶ／教える：なぜ教育が義務化されるのか ほか レポート編	
	第6回	働く：働かなくてよいのが「良い社会」？ ほか テキスト編	
	第7回	働く：働かなくてよいのが「良い社会」？ ほか レポート編	
	第8回	結婚・家族：「見合い婚」の不思議 ほか テキスト編	
	第9回	結婚・家族：「見合い婚」の不思議 ほか レポート編	
	第10回	病い・老い：病むことはどのような経験か ほか テキスト編	
	第11回	病い・老い：病むことはどのような経験か ほか レポート編	
	第12回	死：死のポルノグラフィ化 ほか テキスト編	
	第13回	死：死のポルノグラフィ化 ほか レポート編	
	第14回	科学・学問：科学と社会はどのような関係にあるのか ほか テキスト編	
	第15回	科学・学問：科学と社会はどのような関係にあるのか ほか レポート編	
授業概要	テキストに沿って、該当の章について2回にわたって取り扱います。1週目はテキストの内容を確認し、論題について意見交換します。2週目は実施した小レポートの成果を確認し、内容について意見交換します。受講生には、質問・コメント、小レポート、発表を求めます。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	テキスト編：テキストの該当箇所を事前に読み、不明点やコメント、議論したいことをアウトプットする。(30～60分) レポート編：論題に沿ってレポートを作成してアウトプットする。(40～80分)		
テキスト	筒井淳也・前田泰樹著、2017、『社会学入門 社会とのかかわり方』有斐閣ストゥディア (ISBN-13: 978-4641150461、冊子版 2000円＋税)		
受講生へのメッセージ (授業評価を踏まえた方針など)	毎時間グループでの話し合いを予定しています。		
評価方法	小レポート：60%、発表：40%		
参考文献			
備考			

講義科目名称：経済学（30970）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択・教職選択必修
担当教員			
鈴木 久美			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	日常生活とマイクロ経済学、マクロ経済学の概念の融合を目的とします。 新聞やテレビの経済ニュースを経済理論で説明できるようになることを目的とします。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス シラバス内容に関して詳しく説明します。 受講の際の注意について説明します。 対面授業～遠隔授業をいくつかの段階にわけて進め方について説明します。</p> <p>第2回 市場・需要・需要曲線</p> <p>第3回 需要曲線のシフト・消費者余剰・供給・供給曲線</p> <p>第4回 供給曲線・供給曲線のシフト・生産者余剰</p> <p>第5回 市場均衡・均衡の変化</p> <p>第6回 確認課題(1)・確認課題(1)の解答</p> <p>第7回 国際貿易</p> <p>第8回 GDP①：定義など</p> <p>第9回 GDP②：名目と実質・経済成長率</p> <p>第10回 国民所得の決定①：民間消費・投資・政府支出</p> <p>第11回 国民所得の決定②：均衡国民所得</p> <p>第12回 財政乗数・租税乗数</p> <p>第13回 開放経済</p> <p>第14回 確認課題(2)・確認課題(2)の解答</p> <p>第15回 総まとめ</p>
授業概要	講義形式を主体とします。テーマごとに講義を受けた後、確認のために授業内課題を行います。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	予習：必要ありません。 復習：学習した概念を次回の講義で利用するので知識の定着をはかってください（必要時間：各自の理解度によるがおよそ30分～1時間程度）。
テキスト	
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	経済学は、積み上げていくタイプの科目なので毎回の講義をきちんと理解しないと次回の講義が理解できなくなる可能性があります。そのため、復習を厭わない方にお勧めします。 数学を利用します。
評価方法	【対面授業の場合】 期末テスト（80%）＋授業内課題（10%×2回） 【遠隔授業の場合】 授業課題、授業参加度（発言やノートなど）、期末課題などで総合的に判断します。評価割合は遠隔授業期間によるため、第1回の授業で説明します。
参考文献	マンキュー『マンキュー 入門経済学』東洋経済新報社（3,200円＋税）
備考	TeamsとTeamsのClassNoteBookを利用します。 ClassNoteBookへのアクセスに関しては、米短の公式発表に従ってください。 第1回目は履修制限しませんが、第2回目以降は履修登録した学生のみ限定いたします。

講義科目名称：倫理学（30980）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択・教職選択必修
担当教員			
佐々木 隼相			
開放（教養）			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	気候変動や食糧危機といった環境をめぐる問題が切実なものである現代社会では、自然と人間の関係のあり方が大きな課題となっています。この授業では自然－人間の関係についてこれまで蓄積されてきた知見に学びながら、自分自身で環境問題を考えるさいの思考の基礎にできることを目指します。
授業計画	<p>第1回 「自然」「環境」「倫理学」とはなにか？</p> <p>第2回 人間中心主義をめぐる批判</p> <p>第3回 ネイチャーライティングを読む</p> <p>第4回 「故郷」としての自然</p> <p>第5回 自然保護の歴史</p> <p>第6回 動物の権利</p> <p>第7回 リスク社会</p> <p>第8回 環境正義</p> <p>第9回 世代間倫理</p> <p>第10回 日本の環境思想（1）足尾銅山事件と渡瀬川鉍毒事件</p> <p>第11回 日本の環境思想（2）南方熊楠とエコロジー</p> <p>第12回 日本の環境思想（3）熊本・水俣</p> <p>第13回 日本の環境思想（4）沖縄・金武湾</p> <p>第14回 日本の環境思想（5）東日本大震災</p> <p>第15回 まとめ</p>
授業概要	「地球・自然・環境」に「優しくしよう」、という言葉をしばしば耳にします。このフレーズに反対する人はあまりいません。またわたしたちは「優しい」行動の例をいくつも思い浮かべることができます。しかし、どうして人間の特定のふるまいが「地球・自然・環境」にとって「優しい」といえるのでしょうか。こうした身近で素朴な疑問から、人間と自然あるいは環境をめぐる倫理的な問題を一緒に考えていきます。もちろん思考の導きとして先人たちの思索も紹介します。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	配布資料や授業中の対話を振り返ってみる、あるいは日常的に環境や自然にかんする話題に関心をもつ、など、自分にとって大切な問題として筋道をたてて考えることを意識してください。
テキスト	特に指定せず必要に応じてプリントを配布します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	自然と人間の関係は遠い昔から現在にいたるまで熱心に議論されてきたテーマです。この授業では全員で対話を重ねながら人間と自然をめぐる問題にたいする理解を深めていきます。一緒に考えたい、話したいテーマなどがあれば積極的に共有してください。
評価方法	期末レポート50%・授業への参加度（対話における発言など）50%
参考文献	授業ごとに紹介します。
備考	

講義科目名称：哲学（30990）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択・教職選択必修
担当教員			
小熊 正久			
開放（教養）			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	テーマ：コミュニケーション手段（媒体）としての言語や画像表現（絵画、写真）を主題にして、知覚、言語、画像、世界に関連する哲学説を検討しながら、フッサール、ソシュール、メルロ＝ポンティといった現代の思想を学ぶ。 到達目標：言語、絵画といった他者とのコミュニケーション手段の意義について、自分で考えることができ、コミュニケーションの実践に役立てることができるようにする。
授業計画	<p>第1回 講義全体の概観（表現としての言語と絵画）〔序論〕。〔 〕内は教科書の箇所。エピクロスの影響による視覚論〔第1章2節〕。次回の導入。</p> <p>第2回 プラトンのイデア論（言語の意味の考察の源流）〔第1章1節〕</p> <p>第3回 デカルトの哲学（我思う故に我あり）〔第1章3節A〕</p> <p>第4回 デカルトの視覚論。〔第1章3節B〕</p> <p>第5回 ロックの認識論と言語論。観念の形成と言語、コミュニケーション。〔第1章4節〕 第1回目課題提示の予定</p> <p>第6回 バークリー（抽象観念の批判）。〔第1章5節〕</p> <p>第7回 カント（感性・悟性）。〔第1章6節〕。</p> <p>第8回 カント（感性と悟性を媒介する想像力の図式）。〔第1章6節の4〕</p> <p>第9回 分類と差異。ソシュールの言語論。〔第2章1節〕</p> <p>第10回 メルロ＝ポンティのソシュール理解。意味の問題。〔第2章2, 3節〕 第2回目課題提示の予定</p> <p>第11回 記号・表現・意味。言語的意味と前言語的意味。〔第3章1, 2節〕</p> <p>第12回 身体と間主観性の問題。〔第3章3, 4節〕</p> <p>第13回 フッサールによる画像意識の解明。〔第3章5節〕</p> <p>第14回 知覚と描くこと。〔第4章1, 2章〕</p> <p>第15回 絵画における意味〔第4章3, 4, 5節〕。 期末課題提示の予定。</p>
授業概要	教科書とプリントに従い、表現の思想を追いながら、世界と人間の関係について学ぶ。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	教科書、プリントを使い、予習（ざっと読む）と復習（整理する）をしてください。
テキスト	『メルロ＝ポンティの表現論』（小熊正久、東信堂、1900円+税）を教科書とする。 ISBN978-4-7989-1590-6C3010. 大学内の購買部で購入可能。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	古典的哲学者とともに身近な話題も取り入れながら、わかりやすい授業としたい。質問や感想を述べやすい方式とするので、どんどん寄せてください。
評価方法	3回の課題提出（80%）と授業参加（20%、質問や感想を含む）による。
参考文献	随時参考となる書物を紹介する。
備考	

講義科目名称：宗教学（31000）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択・教職選択必修
担当教員			
原 淳一郎			
開放（教養）	高大連携開放科目※	※高校生男女が受講する場合有	授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	世界の宗教を事例としながら、人間にとって宗教とはどのようなものかという普遍的な宗教学の課題を考えていきたい。また世界の諸宗教がどのような経緯で生まれ、その地域にどのような影響を与えているかを知ってもらい、世界を自分なりに理解する手がかりとしてもらえれば幸いです。今後の国際化社会のなかでは、重要な視点の1つであるはずで。
授業計画	<p>第1回 宗教はどのようにして生まれるのか？</p> <p>第2回 宗教の定義、宗教の分類</p> <p>第3回 宗教的世界観1（神話の世界1）</p> <p>第4回 宗教的世界観2（神話の世界2）</p> <p>第5回 宗教的世界観3（聖と俗）</p> <p>第6回 宗教的世界観4（死と再生）</p> <p>第7回 宗教的世界観5（天国と地獄）</p> <p>第8回 ユダヤ教とキリスト教</p> <p>第9回 イスラム</p> <p>第10回 ヒンドゥー教</p> <p>第11回 仏教</p> <p>第12回 日本における仏教</p> <p>第13回 儒教・老荘思想・道教・修験道</p> <p>第14回 神道と国家神道</p> <p>第15回 新宗教と現代宗教</p>
授業概要	宗教学の概念、宗教学のいくつかの分野、各成立宗教と民族宗教の紹介を通じて、いかに宗教が身近であるか、世界の紛争の多くが宗教に端を発しているか、日々の生活において宗教が多く基準となっているか、そしていかに日本人がそれに疎いか、を実感してもらえようようにしていきたいと考えています。教員自身の体験、宗教学会や人類学会での各研究者の報告から色々なエピソードを交えてお話ししていきたいと思ひます。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	日頃より読書やテレビ視聴、映画鑑賞を通じて、宗教にかかわる事柄について積極的に情報収集し、主体的に考えること。
テキスト	とくになし。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	参考図書として、岸本英夫『宗教学』、宮家準『宗教民俗学』・『日本の民俗宗教』。興味が出てきたら是非読んでみて理解を深めてください。さらに関心があれば、適宜海外の文献も含めてお教えします。
評価方法	数回（6～7回程度）の課題で評価します。それぞれ4段階に評価し、平均をとります。その内容の高度さはもちろん、いかに講義中に自分の頭を使って考えたかが伝わるような主体的な取り組み方が窺われるものを評価します。約6～7回中提出回数が、3回以上（可）、5回以上（良）、6回以上（優）を目安としますが、内容によって1～2段階上下させることがあります。これは、ただ名前を書いて提出する人、あるいは1行程度しか書かない人と、しっかり考えて書いてくれた人と差をつけるための措置です。
参考文献	

講義科目名称：思想史（31010）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択
担当教員			
小野 卓也			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	日本は昔から、インドや中国の文化（言語と論理、宗教と死生観、恋愛観や家族観など）を積極的に取り入れてきました。その結果、私たちの習慣やものの考え方の背景には、知らず知らずのうちにこうした国々の影響が多く残されています。 この授業では、私たちの日常生活にひそむインドや中国からの影響を学び、その発想や捉え方の違いを、日本と比較して見ていきます。当然と思っていたことの背景にある未知の歴史や、それが当然ではない世界との比較から見えてくるものは何か、一緒に考えていきましょう。
授業計画	<p>第1回 日本語の中のインドの言葉 音写と意識のメリットとデメリット。梵文を書いてみよう</p> <p>第2回 七福神の成立 インド・中国・日本の神様の違い。人は神仏に何を求めるのか</p> <p>第3回 カレーライスの歴史 インドから日本への経路。外国文化の伝播と日本国内の広がり</p> <p>第4回 無常について いろは歌と「もののあはれ」。ネガティブな捉え方とポジティブな捉え方</p> <p>第5回 苦と解脱 四苦八苦から涅槃へ。悩み苦しみを乗り越えて幸せになる方法</p> <p>第6回 善悪の基準 十悪業と四摂法。法律・倫理・美学・宗教でどこが異なるのか</p> <p>第7回 自己とは何か コロナ禍で見失ってしまった自分を再構築するために</p> <p>第8回 業と来世 輪廻と黄泉の国について。人は死んだらどうなるのか</p> <p>第9回 世界の始まりと終わり 世界は単一か多元か。存在論と認識論をめぐって</p> <p>第10回 先祖と神仏 餓鬼と御霊信仰。死者はどのように扱われるか</p> <p>第11回 愛と慈悲 ラブスタイル類型論から分析する愛欲と慈悲と仁</p> <p>第12回 心とは何か 心を整える心理学と唯識。身体の外に広がる心</p> <p>第13回 身分と差別 カースト制度を擁護した人たち。差別はなぜなくなるのか</p> <p>第14回 議論と論理 六師外道とアショーカ王。対立を乗り越える話し合いの進め方</p> <p>第15回 仏教と女性 比丘尼教団の成立と今。男女平等はいかにして達成されるか</p>
授業概要	毎回テーマに沿って、インド・中国・日本、あるいはバラモン教・ヒンドゥー教・儒教・道教・仏教における考え方の違いを比較していきます。授業の最後に簡単な課題を出し、次回まで考えてきて、出席カードに書いてもらいます。優れた回答は発表します。
実務経験及び授業の内容	講師はインド留学経験があり、そこでの見聞も授業中に適宜紹介していきたいと思っています。また禅宗寺院の住職、人権擁護委員、保護司、家庭教育アドバイザー、県男女共同参画推進員なども務めており、その実務経験に基づいた現代の問題にも触れます。
時間外学習	授業の最後に出す課題は、自身の経験に照らして考えてきてもらう内容です。授業内容をもとに、自分の見方や考え方を整理してきてください。
テキスト	プリントを配布しますので、穴をあけて綴じられるA4ファイルを用意してください。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	聞いてなるほどと思うだけでなく、それが自分の考え方にどのように関係してくるのかを考えてもらえるよう心がけて進めていきたいと思っています。
評価方法	毎回、授業の終わりに感想を書いてもらい、これを出席点とします。そのほかにレポートを2回書いてもらい、出席点80%、レポート20%で成績を評価します。
参考文献	授業中に適宜紹介します。
備考	